都道府県番号　28

文部科学省研究開発学校

令和6年度　研究開発実施報告書

第一年次

研究開発課題

幼稚園教育要領における５領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

令和7年2月

神戸大学附属幼稚園　外9園

本報告書に記載されている内容は、教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって、この研究内容の全てが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できる性格のものでないことに留意してお読みください。

目　　次

令和６年度研究開発実施報告書（要約）

１　研究開発課題 …… 1
２　研究の概要 …… 1
３　研究の目的と仮説等 …… 1
（１）研究仮説 1
（２）教育課程の特例 2
４　研究内容 …… 2
（１）教育課程の内容 2
（２）研究の経過 4
（３）評価に関する取組 6
５　研究開発の成果 …… 6
（１）実施による効果 6
（２）実施上の問題点と今後の課題 10
別紙１－１　神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧 11
別紙１－２　新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組み 13
別紙２　学校等の概要 14

令和６年度研究開発実施報告書

１　研究開発課題 …… 16
２　研究開発の概要 …… 16
３　研究開発の経緯 …… 19
（１）本園の見出している資質・能力の見直し 19
（２）文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理 19
（３）新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定 20
４　研究開発の内容 …… 20
（１）本園の見出している資質・能力の見直しによる教育課程の編成 20
（２）編成した教育課程の内容の評価 29
○ねらいや手立て等の集積や改善 29
○人格形成の基礎となる資質・能力に、「自分のことを知る」の資質・能力を新たに位置付けたことによる成果 30
○思考力の資質・能力の捉えやねらいの見直しへの課題 31

５　研究開発の成果 …… 31
（１）子どもへの効果 31
a. 詳細な観点の資質・能力カリキュラムによる多様な資質・能力の発揮、伸長 31
b. ドキュメンテーションによる資質・能力の発揮、伸長 32
（２）教師への効果 32
a. 子どもの姿の見取りの深まりからよりよい実践へ 32
b. 育みたい資質・能力の方向性を明確にした関わりへの意識の高まり 33
c. ３年間及び小学校以降の育ちの見通し、学びのつながりへの意識の高まり 33
d. 保護者等への発信力の高まり 34
（３）保護者や地域社会への効果 34
a. 保護者による資質・能力を意識した子どもの見取りや関わり 34
b. 兵庫県内の幼児教育施設への研究協力依頼 35
６　今後の方向性と課題 …… 35
【研究組織】 36
（１）研究組織の概要
（２）研究担当者 37
（３）運営指導委員会 37
別紙１　研究の概要図 38
別紙２　神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧 39

28	神戸大学附属幼稚園　外９園	R6～R9

令和６年度研究開発実施報告書（要約）

１　研究開発課題

幼稚園教育要領における５領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

２　研究の概要

幼児教育の独自性の担保に寄与してきた幼稚園教育要領の５領域の構成と幼小における要領上の用語の不一致は、資質・能力の考え方が普及する現在、幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。

そこで、資質・能力の観点から領域の枠組みを再編し、用語の整合性を図ることで、幼小双方の教師、さらには社会一般の幼児教育への理解の深化に資する、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムと指導方法の研究開発に取り組む。

具体的には、以下の取組を実施する。

①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、５領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設

②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発

③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集

④新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価

⑤子どもの追跡調査の実施及び検証

３　研究の目的と仮説等

（１）研究仮説

【手段】

具体的な研究開発の手段は以下のように考えている。

①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、５領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設

本園が平成 12 年度から歴史的、継続的に取り組んできた幼小中の連携によるカリキュラム研究により得られた知見を生かし、幼児教育と小学校の双方の教師が資質・能力を育む観点から見出した子どもの育ちを捉え支える資質・能力を見直し、文部科学省より示されている資質・能力を基にその整合性等を検討し、整理することにより、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい幼児教育における新たなねらいの枠組みを創設する。

②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発

幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい用語を整理し、要領上の整合性を図った上で、新たなねらいの枠組みを採用したカリキュラムを開発する。

③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集

第２年次は新たなねらいの枠組み、第３、４年次は開発したカリキュラムによる

実践を通した子どもの事実を基に作成した実践記録やドキュメンテーション、保育指導案等で実践データを研究開発学校実施園及び研究協力園において収集するとともに、子どもの学びの実態に着目しながら、資質・能力の発揮、伸長に有効な手立てを、根拠を明確にしながら検証する。その際、常に子どもの事実にこだわり、子どもが何を学んだかを見取ることに主眼を置き、各教師個人による日々の省察、研究グループによる省察及び全体での省察を行う。

④新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価

研究協力園も含めた保育実践に加え、これまで幼稚園年長児と小学校１年生との合同学習として、幼小の教師が共同で、幼稚園年長児と小学校１年生に同じねらいを設定し、学習の場を生み出してきている取組を、新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを踏まえて構想する。新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを試行的に架け橋期のカリキュラムに位置付け、幼稚園での学びや学び方、幼児教育における「環境を通して行う教育」の考え方を取り入れた上での実践を通して収集した実践データを基に、架け橋期のカリキュラム及び指導方法、新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの妥当性を検証・評価する。

⑤子どもの追跡調査の実施及び検証

附属小学校との連携により幼小合同学習の実践データを継続して収集し、小学校１年生のうち、開発したカリキュラムによる保育実践を実施した本園を修了した子どもと外部から入学した子どもとのデータを比較・分析することにより、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における効果を、科学的根拠を基に検証する。

【期待される具体的成果】

本研究開発による実践を通して、次のような成果が得られると考える。

①幼児教育と小学校教育の接続や幼児期の資質・能力の育成を推進することに資する、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすいカリキュラムの構造化や要領上の用語の整理を図ることができる。

②架け橋期を含む子どもの資質・能力の育成に有効な指導方法が明らかとなり、具体的な教育実践が提案できる。

③幼小の教師が共同で学習の場を構想、実践することを通して、幼小における子どもの学びの見取り方や指導方法等の相互理解の深化が図れる。

④子どもの追跡調査により、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における有効性について科学的根拠を基に証明できる。

⑤研究発表会等を通して、幼児教育と小学校教育の接続や子どもの資質・能力の育成の在り方について、地域の幼児教育及び小学校教育関係者との相互理解を促進するとともに、保護者の理解を深めるなど、より一層の連携・協力を推進することができる。

（２）教育課程の特例

なし

４　研究内容

（１）教育課程の内容

これまでの保育実践やカリキュラム・マネジメントによる集積データを基に、本園の見出している資質・能力について名称や定義、捉え方等を見直し、例えば、思考力の一つとして位置付けていた「自分を客観的に把握する」の資質・能力を、人

格形成の基礎となる資質・能力のまとまりの中の一つの資質・能力と捉え直し「自分のことを知る」として位置付けたり、知性につながる資質・能力のまとまりにおける資質・能力間の関係性を見直して配列し直したりといった修正を行なった。

神戸大学附属幼稚園　　資質・能力の定義（令和７年１月現在）

資質・能力の大きなまとまり	【資質・能力のまとまり】定義	資質・能力	資質・能力の定義
人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ	興味・関心をもったり、目的や目標を定めたりして、その実現に向けて見通しをもち、やり遂げようとする
		自分に満足する	自分の成長を自覚し、自らの価値に気付く
		気持ちをコントロールする	よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする
		自分のことを知る	自分に関心を寄せ、自分の思いや状態、性格などに気付いたり、それを認めようとしたりする
	【人とのつながり】 人と関わることを通して、他者の思いや考えに気付き、よりよい関係をつくろうとする	他者といる喜びを感じる	他者と関わる心地よさや嬉しさ、よさを感じてつながりを大切にしようとする
		他者のことを知る	他者に関心をもち、思いや考え、個性を認めようとする
		自分のことを伝える	相手に分かるように、自分の思いや考えを行動や言葉で伝えようとする
		他者のことを考えて行動する	他者に寄り添い、相手にとってよいと思うことをしようとする
		人と物事を進める	人と共通の目的や目標に向かって、自分にできることをしようとしたり、見通しをもって必要なことを決めたり、互いの役割を意識しながら責任を果たそうとしたりする
知性につながる資質・能力	体の健康を保つ		健康の保持・増進に関心をもち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする
	身を守る		自分の状態や周囲の状況に気付き、安全について考え行動しようとする
	身体を操作する		運動の特性に応じた身体の使い方をしようとする
	自然環境を見つめる		空や雲、土、天体など、自然環境の美しさや不思議さに触れる中で、自然に対する理解を深める
	生き物・命を見つめる		生き物の美しさや不思議さに触れる中で、生命に対する理解を深める
	事物・現象を捉える		科学的に分析・思考しながら、性質や特徴を見出したり、ものやこと同士の関係性を捉えたりする
	語彙・語句を活用する		語彙・語句を豊富に獲得し、活用しようとする
	文章の構成を整える		文章の構成を考えて、整えようとする
	数・量を捉える		数・量を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする
	形を捉える		図形を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする
	空間を捉える		場を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする
	場や状況を整える		快適で心地よい生活空間を知り、整えようとする
	食を見つめる		食べることの楽しさを感じたり、様々な食文化について知り、取り入れようとしたりする
	財を活用する		売買の仕組みやサービスについて知り、お金を適切に扱おうとする
	資源の活用を見つめる		限りあるものの適切な使い方や使う量を考え、大切に扱おうとする
	施設や働く人とつながりをもつ		施設や働く人の役割を知り、自分の関わり方を考える
	多様な文化を尊重する		自国の文化や他国の文化のよさや互いの文化の違いを知り、認めようとする
	造形に表す		色や形、素材の生かされ方のよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	音楽に表す		音の響き、リズム、テンポやメロディーのよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	文芸に表す		話の展開や内容、話や役などの設定、言葉のよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	身体の動きに表す		動作や表情、声の調子などのよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	演出に表す		配役や場の取り方、プログラムの順序などのよさを感じたり、表現方法を考えたり、それらを使って表現しようとしたりする

「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される資質・能力

		比較する	対象と視点を明確にしながら、差異点や共通点を見付け出す

思考力	【論理的思考力】 物事を整理し、順序よく考える力	関連付ける	対象と視点を明確にしながら、その間にあるつながりを見付け出す
		総合する	比較したり関連付けたりしたことを基に、考えをまとめる
		再構成する(※)	自分の知識や考えを、より妥当性の高いものに更新する
		推論する(※)	比較・関連付けして得られた明確な根拠を基に、何らかの考えに至る
		論点を抽出する(※)	話の中心になるところを探り、目的に応じて絞り込み、確定する
		批判的に考える(※)	思考・判断に必要な情報の確かさを疑う
	【問題解決力】 問題を見出し、解決方法を導き出し、実行する力	問題を認識する	ある目的を達成するための問いを生む
		豊かに発想し、追求の手立てを構想する	ある目的を達成するための方法を直感的・論理的に考え、最適な考えを選ぶ
		実行し、その結果を基に判断する	実行を基に、目的が達成されたかどうかその過程が適切であったかどうかを評価する

(※)現時点で神戸大学附属幼稚園の指導計画において、ねらいの言葉に表れてはいないが、表出された子どもの姿から見取ったり、子どもの姿に応じて教師の意図に含み込んで支えたりする資質・能力として存在しているもの。

本園の教育課程は「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」の観点からねらいを構成し、「思考力」の資質・能力については、これらのねらいの言葉に含み込んで表している。（別紙１）

（２）研究の経過

	実施内容等
第一年次	第一年次は、55回の園内研究会、７回の拡大研究会、２回の運営指導委員会を実施、以下の研究を実施した。 **１　本園の見出している資質・能力の見直し** これまでの保育実践やカリキュラム・マネジメントによる集積データを基に、本園の見出している資質・能力について名称や定義、捉え方等を見直した。 **◆資質・能力名を幼児期に適したものに見直す** 幼児期には、適切さや数理的及び科学的な正確性ではなく、関心・感覚を育むことが重要であると考え、資質・能力名にあった「適切に」「数理的に」「科学的に」という言葉を削除した。 **◆資質・能力の定義や捉え方を見直す** 事例検討など集積されたデータから、「文芸に表す」「演出に表す」の資質・能力の定義に、話や役の設定、表現方法といった新たな要素を増やしたり、「資源の活用を見つめる」の資質・能力における資源の捉え方を物だけでなく時間や労力も資源であると広げたりした。 **◆資質・能力としてのあり方を問い直し、他の資質・能力で捉え直す** 扱う対象によって資質・能力が異なるのは本園の資質・能力の考え方にそぐわないと考え、「衣類を整える」の資質・能力を「道具を操る」と「身体を操作する」の資質・能力で捉え直すなどの捉え直しを行った。また、「他者を称賛する」などの資質・能力は、他者のよさに気付いている部分は「他者のことを知る」、感じた思いを伝えようとする部分は「自分のことを伝える」などと具体的な内容によって他の資質・能力で捉えることが望ましいと考え、削除したりした。 **◆資質・能力として本質的な違いがあるのかを問い直し、統合する** 「人と協力・共同する」と「人と物事を進める」、「事物を捉える」と「現象を捉える」、「心の健康を保つ」と「気持ちをコントロールする」などの資質・能力は、資質・能力として別の力であるのか議論を重ね、本質的な資質・能力としては同じではないかと考え、統合した。

◆汎用的資質・能力（思考力）であるか問い直す

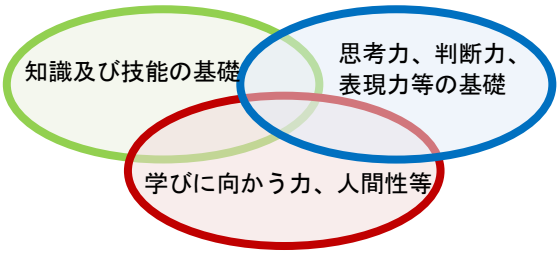
事例検討から、汎用的資質・能力（思考力）のうちの「自分を客観的に把握する」の資質・能力が、他の資質・能力と同時に発揮、伸長するのではなく単独で発揮、伸長されていることから、社会的資質・能力（人格形成の基礎となる資質・能力）として「自分のことを知る」の資質・能力と位置付け、捉え直した。

◆大きな資質・能力のまとまりの名称を変更し、定義の言葉で表す

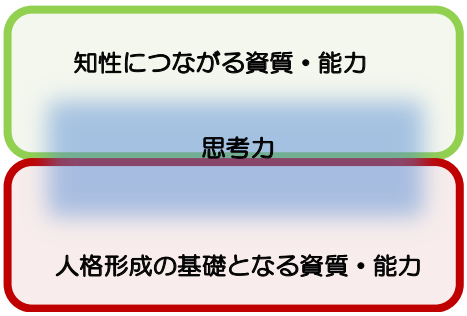
広く理解してもらうという視点から、大きな資質・能力のまとまりの名称を、これまで定義として使っていた言葉で表すこととした。「社会的資質・能力」を「人格形成の基礎となる資質・能力」に、「固有的資質・能力」を「知性につながる資質・能力」に、「汎用的資質・能力」を「思考力」に変更した。

2　文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理

文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理した結果、「学びに向かう力、人間性等」と本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知識及び技能の基礎」と本園の見出している「知性につながる資質・能力」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」と本園の見出している「思考力」は「同等」であると考えた。ただし、「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、重なりをもって示されており、関係性は明確にされていないが、本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知性につながる資質・能力」、「思考力」の関係性は、「人格形成の基礎となる資質・能力」と「知性につながる資質・能力」には重なりはなく、「思考力」は「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と重なっており、切り離して捉えることはできないと考えた。



【文部科学省の資質・能力】



【神戸大学附属幼稚園の資質・能力】

3　新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定

このように再整理した資質・能力を基に、幼児期の資質・能力を育む観点からの子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」を検討した結果、別紙１－２に示すとおり、「思考力」と設定している10の資質・能力については、９の「人格形成の基礎となる資質・能力」22の「知性につながる資質・能力」、計31から成るねらいの枠組みの中に設定していく考え方が理解しやすいと考える。

（３）評価に関する取組

<table>
<tr><th></th><th>評価方法等</th></tr>
<tr><td>第一年次</td><td>
１　第１回運営指導委員会を開催し、４年間の研究計画について指導・助言を受けた
指導・助言いただいたことは以下の事項についてである。
・幼稚園教育要領の考え方、捉え方を踏まえること
・神戸大学附属幼稚園の資質・能力における、まとまりや定義、関係性の精査
２　実践事例作成・検討による子どもの学び及び教師の手立ての評価
実践事例の作成や職員間での事例検討により、より詳細で具体的な振り返りを行い、子どもが資質・能力を発揮、伸長する姿の丁寧な捉えや、教師の手立ての有効性の確認と改善を行なっている。今年度12月までに検討した事例は以下の11事例である。
<table>
<tr><td>3歳</td><td>R6.6</td><td>用意をして一緒に遊ぼう！</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.12</td><td>大根獲りたい！</td></tr>
<tr><td>4歳</td><td>R6.6</td><td>ドキドキする時はどうする？</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.6</td><td>言い方きつくなっちゃってた？</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.6</td><td>お部屋に戻ろう</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.12</td><td>捕まりそうになったらどうする？</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.12</td><td>ターザンロープに跳び乗れた！</td></tr>
<tr><td>5歳</td><td>R6.7</td><td>的を倒されないようにするために</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.7</td><td>どうしてトウモロコシは黄色くなるの？</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.12</td><td>お弁当を一緒に食べよう！</td></tr>
<tr><td></td><td>R6.12</td><td>みんなで演奏会をしよう！</td></tr>
</table>
３　第２回運営指導委員会を開催し、第一年次の研究成果についての評価及び第二年次の研究の方向性について指導・助言を受けた
指導・助言いただいたことは以下の事項についてである。
・幼児教育において、プロセス（関心・感覚）が大切である
・将来を急がずにその年齢なりの姿が捉えられる資質・能力名や資質・能力の定義の表し方を探る
・詳細な観点の資質・能力が関連しながら総合的に育まれるという前提とともに表す
</td></tr>
</table>

５　研究開発の成果

（１）実施による効果

〇子どもへの効果

a. 詳細な観点の資質・能力カリキュラムによる多様な資質・能力の発揮、伸長

本園の見出している資質・能力の観点で作成した教育課程に基づいて実践及び実践後の園内研修を実施した。子どもへの効果については、客観的に数値で表すことには至っていないが、ドキュメンテーションでまとめた学びの記述や、実践記録における資質・能力を発揮、伸長している姿の記述から、育ちを捉えることができる。特に、「自分のことを知る」の資質・能力について、教師がより意識して子どもの姿を見取ったり、子どもの姿を基にねらいをもち実践に当たったり、実践の省察を行い、３年間を見通してねらいや関わりを検討したりするなどしたことから、子どもへの間接的な効果が大きかったと考える。その他、教育課程の実施等により、教師が捉えている具体的な子どもの姿を以下に示す。

・お弁当の用意場面の実践事例検討の際、机の拭き方に対してどのような意図をもってどの

ような援助をするとよいのか職員間で協議したことで、その後の保育実践の中で、手にあった大きさに布巾を畳むことの必要やよさを感じられるようにと意図を明確にした援助を行うことができ、子ども自身が布巾で拭いた部分の拭き跡を確かめたり、拭けていない部分があることに気付き、布巾を畳み直して拭いたりするなどの変容が見られた。
・「事物・現象を捉える」の資質・能力の月の指導計画の充実により、ホットボンドを扱う時期について検討でき、子どもが木工ボンドとの違いを感じたりホットボンドの特性に驚いたりする姿につながった。
・資質・能力カリキュラムにより多様な観点をもっていることで、結婚式ごっこを楽しむ3歳児の遊びを支える上で、子どもの姿に変容が見られたときに、幅広い方向性で学びの可能性を広げることができた。実際に、なりきって踊る「身体の動きを表す」の資質・能力や衣装を作る「造形に表す」の資質・能力に向けての援助から、子どもの姿の変容に合わせて「演出に表す」の資質・能力を支える環境の構成を行うことで、子どもが多様な資質・能力を発揮、伸長することができた。
・教師が、育みたい資質・能力の方向性を明確にして子どもに言葉がけをすることで、子どもたちは何を問われているのか、考えることが明確になり、その方向に向けて深く考えるなど確かに学びに向かう姿を見取ることができた。

また、地域の保育者の研修の場として実施している幼児教育を考える研究会において、参加者には、指定した遊び（各学年から三つ程度）を参観し、本園の見出している資質・能力の観点で見取った学びを「学びのカード」に記入してもらい、協議を行っている。参観者の書いた学びのカードを分析すると、本園の見出している資質・能力41のうち、23の資質・能力について、参観者が学びと捉えた子どもの姿の見取りがあった。これは、本園の子どもの姿には、多様な資質・能力が育っていると、外部の保育者からも評価されていると言えるだろう。

b. ドキュメンテーションによる資質・能力の発揮、伸長

ドキュメンテーションの掲示や、子どもとともに作り、遊びの過程を書き表していくドキュメンテーションにより、「自ら決める・選ぶ」「自分に満足する」「他者のことを知る」「生き物・命を見つめる」等の資質・能力の発揮、伸長を確認することができている。具体的な姿を以下に示す。

・ 日々の遊びの積み重ねを表すドキュメンテーションを作成し、子どもが見える場所に掲示しておくことで、どんな遊びをしようか迷っている子どもも、ドキュメンテーションを見て、他の友達がどんな遊びをしているのかを知り、自分のしたい遊びを決めて遊ぶ姿や、遊びの続きがしたいと思っている子どもが具体的にどんな遊び方をしていたか思い出す姿などの遊びに向かう姿があった。
・ 好きな遊びや園での生活をドキュメンテーションにして掲示することで、「こんな遊びしていたんだ」「音楽隊の演奏会、今日はするの？」と子ども同士で会話が広がったり、友達のしていることを知る機会にもなったりしている。
・ ドキュメンテーションを見て「こんなにジャンプしてたんや」「真剣な顔をして走っている」「〇〇ちゃん楽しそうにダンスしている」など、自分や友達の遊んでいる姿を客観的に見ることができ、「自分もやってみたい」と遊びを深めるきっかけになったり、「〇〇ちゃんすごいね」と他者のことを知るきっかけになったりしている。
・ 運動会のドキュメンテーションでは、頑張った自分を思い出し、頑張っている姿に満足している様子が見られた。
・ お店屋さんごっこの活動をしている際に、したいことをお店のグループごとに付箋に随時書き残せるようにした。それを子どもがいつでも手に取れる場所に置いておくことで、毎回の活動の終わりに、しようと思っていてまだ残っていることを思い出したり、しようと思っていることの順番を、付箋を並べ変えながら考えたり変えたり、終わったこととこれからすることを子ども達自身で整理したりするようになった。

〇教師への効果

a. 子どもの姿の見取りの深まりからよりよい実践へ

詳細で具体的な資質・能力の観点をもち、保育を計画したり実践記録やドキュメ

ンテーションで言語化しながら保育を振り返ったりすることを通して、子どもにどんな資質・能力が育まれているのかを詳細に見取る力が高まっている。特に、「自分のことを知る」の資質・能力を発揮、伸長する姿の見取りや３年間を通したねらいや手立てのあり方について、事例検討やカリキュラム・マネジメントで明らかにし共有することができた。また、10 の思考力の資質・能力に対しては、人格形成の基礎となる資質・能力及び知性につながる資質・能力のねらいに含み込んで育もうとしているものと、まだ十分に表すことができていない部分やねらいとして意識できていなかった部分があることが明らかになり、思考力の資質・能力の見取りやねらいのもち方を見直すことへの意識が高まっている。

- ドキュメンテーションの作成を通して、遊びで育っている資質・能力を改めて確かめることができたり、実践している際には思っていなかった資質・能力の育ちがあることに気付いたりしている。一方で、実践している際には育っていると思っていた資質・能力が、改めて子どもの姿から振り返ると、思ったような姿が表れていないことにも気付き、自分の保育のねらいや援助を振り返る機会となっている。
- 資質・能力カリキュラムの作成や検討により、自分が見取りにくい資質・能力が明らかになり、その資質・能力をより意識して見取ろうとすることに繋がった。
- 作成した実践事例を検討する中で、自分が見取れていなかった子どもの内面や行動の可能性を他教諭から助言してもらうこと再考する機会となり、幼児理解が深まった。そのことにより、より有効な関わりや援助の仕方を発見することができた。
- 教育課程のねらいの中に含み込まれている思考力を捉え直すことで、今までは思考力と捉えていなかった部分にも思考力が含まれている可能性に気付き、今後の保育でより意識しようと思うことに繋がった。
- 思考力を含めたねらいをあまりもてていなかった３歳児においても、積極的に思考している姿を見取ろうとしたり、ねらいとしてもったりしようとする意識が高まった。
- ねらいをもつ時点での思考力の資質・能力の視点が弱かったことを改めて認識した。現在の思考力の数や定義等、小学校以降の思考力も見通しながら、見直していきたい。

b. 育みたい資質・能力の方向性を明確にした関わりへの意識の高まり

教師の援助や環境の構成及び再構成を、育みたい資質・能力の方向性を明確にした意図と行為をセットにして指導計画に表すことや、実践事例の作成や検討で自分の行なった関わりの意図を言語化し振り返ることを続けることで、普段から、子どもにどの資質・能力の方向での育ちを願って関わるかを明確にして関わろうとする意識が高まっている。

- 資質・能力の観点をもち、どの方向性なのか確かめながら援助や意図、環境を組み立てているので、教師がどんなことをねらいたいのか、支えたいのかを明確にもつことができるようになった。
- 意図と行為をセットにした援助、環境の構成が必要であることを意識し、座席の配置、朝の何気ない会話、園庭の環境など一つ一つについて、なんとなくしてしまっていることはないか、意味もなくそのままになっている物はないか、批判的な目で自身の振る舞い、環境について日々見つめ直している。
- 実践事例の作成を通して、一連の子どもの事実一つ一つに、どのような資質・能力の発揮、伸長が見られたか丁寧に省察し、学びに向けてどのような援助を行ったか、その援助は有効だったか、振り返ることができた。その場では咄嗟に発した言葉にも、その時どんな意図をもっていたのか言語化することによって明確にすることができた。
- 今年度自身の課題意識のある「食を見つめる」の資質・能力についての事例を作成し、職員で検討したことで、「食を見つめる」の資質・能力の見取りやそこに向けた教師の援助や環境の構成を改めることができた。

c. ３年間及び小学校以降の育ちの見通し、学びのつながりへの意識の高まり

教育課程や長期の指導計画及び遊びや生活のまとまりの計画を基に保育を計画したり振り返ったりすることや、毎学期末にカリキュラム・マネジメントを行うことで、３年間の学びのつながりを意識することができている。月の指導計画に加え、子どもに経験させたいことを遊びや生活ごとに整理した遊びや生活の見通し案を作

成したことで、３年間の経験や学びのつながりを明確にし、その時期に必要な関わりを見直すことができた。また、文部科学省の三つの資質・能力への理解を深める中で、小学校以降の資質・能力の捉え方や評価の仕方、思考力の育ちについて考えることとなり、小学校以降の資質・能力の育ちへの意識も高まった。

- 運動会におけるリズム表現や生活発表会に向けて、遊びや生活のまとまりの計画を作成した。長期の遊びにおいて様々な資質・能力の方向に向けての学びが見られるようにすること、時期ごとにねらいとそれに応じた援助を意識的に変容させていくことを事前に計画・把握しておくことで、見通しをもって進めていくことができている。
- カリキュラム・マネジメントに向けて学期末に学年担任と振り返ることで、各資質・能力を通して担任する学年の子どもの姿や環境を見直す機会になったり、他学年と共有することによって見通しをもったり新たな可能性を考えたりする機会となったりした。
- 資質・能力ごとに生活面のことを捉えることが多かったが、生活の見通し案を作成、整理することで、３年間の発達を見通して生活をどう変えていくのがよいか考えるきっかけとなった。５歳で伝えたり経験させたりしていることであるが、本来はもっと前から経験した方がよいと思ったことは他学年と相談したり、見直したりすることができた。
- カリキュラム・マネジメントにおいて、子どもの育ちを資質・能力ごとに振り返るとともに、他学年と姿を共有し合うことによって、見通しをもって関わり方を変えていく意識をもつことができている。 特に、遊びや生活の見通し案の作成において、身支度や弁当場面などで、一つ一つ丁寧に段階を踏んで生活経験を重ねていけるように３歳児で関わっていることを、細かいことも意識的に言語化して集積した。他学年と共有し合うことによって、どう関わっていくべきか考え、実践するきっかけとなった。
- 文部科学省の示す三つの資質・能力と本園の見出している資質・能力の関係性を明らかにするにあたり、小学校教育における三つの資質・能力の評価についても学び、三つの資質・能力について理解を深めたり、学びのつながりを意識したりすることができた。また、思考力についても小学校以降の育ちも見通しながら見直す必要性を感じている。

d. 保護者等への発信力の高まり

詳細な資質・能力の観点での子どもの見取りを言語化したり、教師の関わりを意図とセットで言語化したりすること、また、言語化されたものを基に事例検討等職員で検討することを通して、子どもの学びや教師が大切にしていることを発信する力が高まっている。

- ドキュメンテーションの作成により、遊びの中の学びを言語化し、発信する力が培われていると感じる。意識的に文字に起こす経験を繰り返すうちに、日々の保護者への降園連絡や懇談でも、大切にしていることや今子どもが学んでいることについて以前よりもポイントを押さえて話せるようになってきている。

○保護者や地域社会への効果

a. 保護者による資質・能力を意識した子どもの見取りや関わり

保護者に対しては、子どもの具体的な資質・能力の育ちをドキュメンテーションで発信したり、本園で見出している資質・能力の観点による教育課程を基に子どもの実態やねらいを共有したり、具体的なねらいを示して保育参観や保育参加に取り組んでもらっている。それらの感想の中には、本園の見出している資質・能力の観点で子どもの成長を捉えている保護者や、具体的に多様な観点から子どもの姿を捉えている保護者が見られている。

また、年度末に保護者に対して行う学校評価アンケートにおける「園は、指導方針や教育活動のねらい、子どもの実態をわかりやすく伝えている」かの問いに対し、令和５年度の回答に「懇談会で指導方針の確認があったり、保育参加や行事の度に活動のねらいや、クラスでの様子とねらいの掲載があったりするので、どういう意図をもって活動しているのかが分かりやすく、保護者もどういう意図をもって動けばいいのかが考えられる」といった記述が見られ、詳細な観点でのねらいや意図を明確にした関わりへの評価を得られていると考えている。今年度末の学校評価

アンケートにおいても、保護者への効果を確認していく。
また、現在取り組んでいる研究課題及び内容について、一年次の研究のまとめ及び今後の計画について、二年次当初に保護者に示し理解と協力を得られるように働きかけるとともに、効果について調査を実施する予定である。

b. 兵庫県内の幼児教育施設への研究協力依頼

研究協力園として協力を得るために重要なことは、本研究開発の意義についての理解を得るとともに、研究協力園としての取組自身が現場の先生方に大きな負担をかけることなく、資質・能力への理解を深め、保育の発信力を高める研修として取り組んでもらえるという利点についての理解を得ることであると考える。

そして、実際に研究協力を得るためには、概ね次の３段階を経ることが必要であることが見えてきた。まず、第１段階は、教育委員会等各市町の幼児教育施設を所管する行政機関に、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。次に、第２段階として、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。さらに、第３段階として、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に直接参画を呼びかける。一年次、第１段階は全て終え、第２段階についても約半分程度終えている。二年次には、第２段階で残っている市町の幼児教育施設の管理職の理解を得るとともに、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらい、参画を呼びかけることも開始する予定である。

（２）実施上の問題点と今後の課題

「思考力」の資質・能力については、「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」のねらいの言葉に含み込んで表していくことが幼児期の学びに相応しいと判断した。今後、「思考力」の資質・能力が、どの資質・能力とどういった関連をもって発揮、伸長していくのか、そのためにどういった手立てが必要であるか、ドキュメンテーションの作成や事例検討、カリキュラム・マネジメントにおいて明らかにしながら、カリキュラムや指導方法の開発に取り組む。
その際、思考力の資質・能力を現在 10 の資質・能力で表しているが、十分であるのか検討を重ねる。

また、本園の見出している資質・能力の資質・能力名や定義、前提などの示し方について、運営指導委員会において指導いただいた観点から再度見直し、詳細な観点の資質・能力が関連しながら総合的に育まれるものであることや、幼児教育においてプロセス（関心・感覚）が大切であることを示し、また、それぞれの資質・能力においてその年齢なりの姿が捉えられるような表し方となるよう配慮するなど、表現方法を改善していく。

別紙１

神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧（No.1）　令和６年４月現在

		３歳児											４歳児											５歳児										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
自分の生き方	自ら決める・選ぶ	したいと思ったり、好きなことを選んだり、したいと思ったことをしたりする					好きなことやしたいことを意識して、選んだりしたりする											できるようになりたい、上手になりたい、こうしたいなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も取り組もうとする											できるようになりたい、上手になりたい、こうしたいなどの具体的な目的をもったり、上達や難しさを感じながら自分の力に見合った目標を決めたり、目的に向けて見通しをもったりして、考え続けたり、何度も試したりし、あきらめずにやり遂げようとする					
	自分に満足する	したいことや必要なことができて嬉しいと思う		したいことや必要なことができたり、できるようになったりして、嬉しいと思う			したいことができたり、できるようになったりたりして、嬉しいと思ったり、自信をもったりする											少しずつできるようになってきていることや自分の頑張り、自分の考えのよさを感じて嬉しいと思ったり、自信をもったりする				できなかったことや苦労したことを振り返ったり友達に認めてもらったりして、自分の頑張りや自分の考えや行動のよさを感じたり前とは違う自分を自覚したりすることで、自信をもったりやり遂げたことに満足したりする											
	気持ちをコントロールする	先生に手伝ってもらって、自分の気持ちを落ち着かせようとする											自分なりの方法で、自分の気持ちを落ち着かせようとする											人の気持ちを聞いたり周りの状況を知らされたりして、気持ちを落ち着けたり、折り合いをつけたりしようとする											人の気持ちを聞いたり周りの状況を見たり感じたりして、気持ちを落ち着けたり、よりよい方向にむけて自分の気持ちに折り合いをつけようとしたりする					
	自分のことを知る																																	
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
人とのつながり	他者という喜びを感じる	先生や友達に親しみをもったり、一緒にいる心地よさを感じたりする			先生や友達に親しみをもったり、一緒にいる心地よさや触れられたりする嬉しさ、一緒に遊ぶ嬉しさを感じたりする								気の合う友達や今まであまりかかわりのなかった友達と一緒にいる心地よさや誘ったり誘われたりする嬉しさ、一緒に遊ぶ嬉しさを感じる					気の合う友達や今まであまりかかわりのなかった友達と、一緒に遊ぶ嬉しさを感じる										いろいろな人と一緒に遊んだり生活したりする嬉しさを感じる					いろいろな人と一緒に遊んだり生活したりする嬉しさを感じたり、仲間とのつながりを喜んだりする				
	他者のことを知る	気になる人の顔や名前を知ろうとする				気になる友達や先生のことを知ろうとしたり、友達や先生の好きなこと、素敵なところなどに気付いたり、いろいろな友達や先生の顔や名前を知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする			いろいろな友達のことを知ろうとしたり、いろいろな友達の個性に気付いたりする				いろいろな友達の気持ちや考えを知ろうとしたり、いろいろな友達の個性に気付いたり、年長児を身近に感じたりする					いろいろな友達の気持ちや考えを知ろうとしたり、今まで知らなかった個性に気付いたり、年長児の優しさを感じたりする								他者の気持ちや考えを知ろうとしたり、友達の考えや今まで知らなかった個性に気付いたり認めたりする										
	自分のことを伝える	自分の気持ちを表情や態度で表し、伝えることのよさを感じる		先生や友達にしたいことやしてほしいこと、自分の気持ちを、行動や言葉で伝えようとする									友達に自分の気持ちを言葉や行動で伝えようとしたり、先生や友達に自分の話をしようとしたりし、伝えることのよさを感じる					友達に自分の気持ちや考えを言葉で伝えようとしたり、先生や友達に自分の話をしようとしたりし、伝えることのよさを感じる								友達に自分の気持ちや考えを分かるように伝えようとしたり、分かってもらえるまで伝えようとしたりし、伝えることのよさを感じる							自分の気持ちや考えを相手にきちんと伝えたいと思って、伝え方を工夫したり、適当な伝え方を選んだりして、分かってもらったり受け入れてもらったりするまで伝えようとしたりし、伝えることのよさを感じる				
	他者のことを考えて行動する	先生や友達の様子を気にする						友達の様子を見たり、話を聞いたりして、気にかける										友達の様子を見たり、話を聞いたりして、してあげたいと思うことをしようとする											自分がどうかかわればよいのかを考えて、友達のためになることをしようとする					
	人と物事を進める																		友達と同じしたいことやすべきことに向けて、思いついたことをしようとしたり、友達の考えを聞いて自分のすることを考えてしようとしたりする												友達と同じしたいことやすべきことに向けて、状況や友達の考え、動きを見たり聞いたりして、自分のできることをしようとする					
																				気持ちや考えを伝え合いながら、遊び方や遊びに必要なルールを、友達と一緒に考えようとする								みんなが楽しくできるように、気持ちや考えを伝え合いながら、遊びや生活のすすめ方や必要なルールを友達と一緒に考えたり、決めたり、見通しをもったりしようとする								友達と共通の目的に向かって、納得するまで一緒に考えたり、試したり、話し合ったりして、遊びや生活のすすめ方や必要なルールを決めたり、守ったり、見通しをもったり、自分の責任を果たしたりしようとする				
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
体の健康を保つ		健康に過ごすためにした方がいいことがあると知り、仕方を聞いて、しようとする						健康に過ごすためにした方がいいことや、なぜしなければならないかを知り、しようとしたり、自分の体に興味をもったりする					体や健康に関心をもったり、健康に過ごすために必要なことや必要な理由を知り、自分からしようとしたりする											体や健康に関心をもったり、体の成長を喜んだり、健康に過ごすために必要なことや必要な理由が分かり、丁寧にしようとしたりする										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
身を守る		初めて出合う環境の中で、どうすると危ない状況になるかを聞き、危なくない方法を知り、その通りにしようとする				どうすると危ない状況になるかを聞き、危なくない方法を知り、危なくないようにしようとする			どうすると危ない状況になるかを聞いたり、驚いたり嫌い思いをしたりして危ないことを感じたりし、危なくない方法を知り、危なくないようにしようとする				新しい遊具や環境の中で、どうすると危ない状況になるかを知ったり、危ない時に身を守る方法を考えたり知ったりして、危なくないようにしようとする					どうすると危ない状況になるかを知ったり、痛い思いや怖い思いをして危ないことを感じたり、危ない時に身を守る方法を考えたり知ったりして、周りの人やものに注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとする								新しい遊具や環境の中で、具体的な場や状況を見聞きしてどうすると危ないかを考えたりどうすると危ない状況になるかを知ったり、危ない時に身を守る方法を考えたり知ったり、どうして危なくなったのかを振り返って考えたりし、周りの人やものに注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとする				どうすると危ない状況になるかや危ない時に身を守る方法を考えたり知ったり、どうして危なくなったのかを振り返って考えたりし、周りの人やものに注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとする						
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
身体を操作する		遊具を使う中で、いろいろな体の動かし方や使い方を感じ、体を動かす楽しさや心地よさを味わう						いろいろな遊具で遊ぶ中で、遊具を使う時の体の動かし方や使い方をしてみたり、いろいろに体を動かしたりしながら、体を動かす楽しさや心地よさを味わう					新しい遊具や用具で遊んだり、いろいろな遊びをしたりする中で、存分に体を動かすことを楽しんだり、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方を試したり、体で覚えたりしようとする					遊具や用具で遊んだり、いろいろな遊びをしたりする中で、存分に体を動かすことを楽しんだり、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方、力加減を、見たり、考えたり、試したり、体で覚えたりしようとする								新しい遊具や用具で遊んだり、友達と一緒にルールのある遊びをしたりする中で、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方、力加減を、見たり、考えたり、試したり、体で覚えたりしようとする				いろいろな運動遊びに挑戦したり、友達と一緒にルールのある遊びをしたりする中で、見たり考えたり試したりしてコツや感覚をつかみ、意識して体を動かしたり、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方を調整したりしようとする				
		遊びや生活をする中で、いろいろな動きの感覚や動くことで生じる感覚を感じる																																
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
人と自然とのあり方を見つめる	自然環境を見つめる	身近な自然環境に触れ、興味・関心をもったり、好奇心をいだいたり、驚き、面白さ、美しさ、不思議さ、心地よさ、厳しさを感じたりする																																
	生き物・命を見つめる	身近な動植物を見たり触ったり嗅いだりなどして、美しさや匂い、感触などを感じたり、色やかたち、大きさ、模様、動きの面白さや不思議さ、違いを感じたりする																																
		身近な動植物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話をしてみようとしたりする																						身近な動物を見たり触ったり調べたりしながら、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、動物の気持ちを考え、命に責任をもって大切に世話をしようとしたりする 身近な植物を見たり触ったり匂ったり世話をしたり調べたりする中で、色や形、模様、匂い、感触、育ち方、なり方などの特徴や変化、生長する様子に感動したり、命に責任をもって大切に世話をしようとしたりする										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
事物・現象を捉える		身の回りのものを五感で感じたり、使ったり、使って遊んだりする中で、そのものの性質を感じて楽しんだり、面白いと思ったり、驚いたり、遊びに使おうとしたりする																																
		自分のしたことや使ったものによって、ものの様子が違うことに驚いたり、面白いと思ったりして、何度もしようとする																		したことや使ったものによって、ものの様子が違うことに驚いたり、不思議に思ったりして、予想したり、確かめたりしながら、何度もしようとする								ものやこととの関係による違いや変化に気付いたり、原因と結果を結び付けて考えたり、経験から予想したり、試したり、確かめたりしようとする										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
		３歳児											４歳児											５歳児										

神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧（No.2）　令和６年４月現在

		３歳児	４歳児	５歳児
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
感動を表現する	造形に表す	素材に触れているうちに表現が生まれていく楽しさを感じたり、生まれたものの よさを感じたり、思い描いたものや、しているうちに思い付いたものを描いたり作ったりする楽しさを感じたり、色や形の美しさや面白さを味わったりする	描きたいもの、作りたいものを思い浮かべて、色や形を考え描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、いろいろな素材を使ったり、友達の表現のよさを感じて取り入れたりしながら、工夫して描いたり作ったり飾ったりすることを楽しむ。また、色や形、組み合わせ方、質感の美しさや面白さを味わう	描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、素材の特徴をいかしたり、友達の表現のよさを感じて取り入れたりしながら、工夫して描いたり作ったりすることを楽しむ 描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべたりその特徴を捉えたりして、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、素材の特徴をいかしたり、友達がすることを真似たり、友達の表現のよさを感じて取り入れたりしながら、綿部までこだわって工夫して描いたり作ったりしようとし、その楽しさを感じる
	音楽に表す	身の回りの音の響き、言葉、歌や曲のリズムやテンポ、メロディーを感じながら、聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、音を鳴らしたりすることを楽しむ	歌や曲のリズムやテンポ、メロディー、曲調を感じたり、歌の情景を思い浮かべたりしながら、聴いたり、歌をうたったり、歌や曲に合わせて楽器を鳴らしたりすることを楽しむ	リズムやテンポ、メロディー、曲調を感じたり、歌の情景を思い浮かべたりしながら、それらを意識して、聴いたり、歌をうたったり、体を動かしたり、楽器を鳴らすタイミングを考えて合奏したりすることを楽しむ 歌詞の意味を自分の状況や物と重ね合わせてうたったり、友達と気持ちを合わせてうたったりする充実感を味わう
		身の回りの音の響きを感じたり、身の回りのもので音を鳴らしたりすることを楽しむ		
	文芸に表す	絵本を見たりお話を聞いたりして、繰り返しの展開を楽しんだり、次はどうなるかを楽しみにしたりする 絵本を見たりお話を聞いたり歌を歌ったりして、話が展開していくことを楽しんだり、情景を思い浮かべたり、登場人物の気持ちを感じたりする	絵本を見たりお話を聞いたり歌を歌ったりして、話の展開を予想したり、情景を思い浮かべたり、登場人物の気持ちを感じたりする。	
		先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながら遊ぶ楽しさを感じる 先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作る楽しさを感じる 先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作る楽しさを感じる	先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作って遊ぶ楽しさを感じる 先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作る楽しさを感じる	イメージを膨らませて、役や設定を考えたり、友達の考えを取り入れたりしながら、友達と一緒にお話を作って遊ぶ楽しさを感じる イメージを膨らませて話の設定や展開を考えて、設定を生かしてお話を作ったり、気持ちや状況に合った歌詞を作ったりする楽しさを感じる
		言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）の面白さを感じる	言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）や例えなどの言い回しの表現の面白さを感じ、それを使って表現する楽しさを感じる	言葉のリズムや韻を踏む響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語を使っての表現の面白さ、例えなどのいろいろな言い回しをしての表現の面白さを感じ、それを使って表現する楽しさを感じる
	身体の動きに表す	自分のなりたいものの姿や動きなどを思い浮かべて、なって遊ぶことを楽しむ 自分のなりたいものの姿や動きなどを思い浮かべたり、友達の表現のよさを感じたり真似をしたりしながら、なって遊ぶことを楽しむ	自分のなりたいものになりきり、具体的な場面を思い浮かべたり、友達の表現のよさを感じたり真似をしたりしながら、動き方や話し方などを考えて身体で表現することを楽しむ 自分のなりたいものになりきったり、気持ちや性格、具体的な場面を思い浮かべたり、友達の表現のよさを感じたり真似をしてみたりしながら、自分なりの表情や言葉、話し方、動き方などで表現したりすることを楽しむ	自分のなりたいものの気持ちや性格、生態から、表情や言葉、話し方、動き方などを考えたり、場面設定に合わせた動き方や話し方などを考えたり、友達の表現のよさや考えを取り入れたりして、表現することを楽しむ
		感じたことや考えたことを身体で表現しようとしたり、それを楽しんだりする		
	演出に表す	自分のなりたいものになるために、小道具や大道具、衣装を使ったり身につけたりして、遊ぶことを楽しむ	自分のなりたいものをよりそれらしく表現するために、使いたい小道具や大道具、衣装などの必要なものを考えたり、それを使ったり身につけたり、友達の衣装や版形のよさを感じたり取り入れたりして、遊ぶことを楽しむ	自分のなりたいものをよりそれらしく表現するために、また、見ている人がどう感じるかを考えながら、自分たちが感じてほしいことをより効果的に表現するために、小道具や大道具、衣装、言葉、話し方、動き、歌のリズム、踊り方、音楽、隊形、プログラムの内容や構成、司会等の役割などを考えたり、試したり、友達がしていることのよさを感じたり取り入れたりして、表現しようとする
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
言語を活用する	語彙・語句を活用する	身近なものの名前や園生活で使う言葉、自分の気持ちを表す言葉を知ったり、使ったりする	言葉の意味を知ったり、知って選んだりする	
		いろいろな語彙に ふれながら、言葉が音の集まりであることを知ったり、音のつながりを楽しんだりする		いろいろな語彙にふれながら、言葉を構成している音の数や並び、組み合わせを使ったり、音を置き換えたりして遊びながら、いろいろな言葉や言葉のつくり、音に興味・関心をもつ
				「てにをは」の違いを感じて、選んで使おうとする 「てにをは」を使い分けようとする
			自分の名前に使われているひらがなを、興味をもって見ようとする 身の回りの記号や文字を、興味をもって見たり読もうとしたりする	遊びの必要から、知りたいことや書かれていることを読もうとしたり、人に伝えたいことや覚えておきたいことを書こうとしたり、書いて残しておくことのよさを感じたりする 遊びの必要から、知りたいことや書かれていることを読もうとしたり、人に伝えたいことや覚えておきたいことを書こうとしたり、書いて残しておくことのよさを感じたり、文字には、決まった形や向き、筆順があることを感じたりする
		場に応じた丁寧な言葉にふれる 場に応じた言葉の丁寧さを感じる	場に応じた丁寧な言葉を使おうとする	場に応じた丁寧な言葉を考えて使おうとする
	文章の構成を整える	先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の言いたいことを自分の言い方で言ったりしようとする 先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の気持ちや思い、考え、言いたいことを自分の言い方や先生に教えてもらった言い方で言ったり、相手に伝えるために必要なポイントを尋ねてもらって言ったりしようとする	先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の気持ちや思い、考えを、相手に伝えるために必要なポイントを教えてもらって話したりしようとする 先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の気持ちや思い、考えを、相手に分かるように繰り返す、言葉を足す、理由を添える、聞かれたことに答えるなどして話したりしようとする	言い方による分かりやすさを感じたり、自分の思いや考えを、相手に分かるように繰り返す、言葉を足す、理由を添える、聞かれたことに答えるなどして話そうとしたりする 言い方による分かりやすさを感じたり、自分の思いや考えを、相手に分かるように言葉を選ぶ、つなげる、順序立てる、理由を添えるなどして伝えようとしたりする
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
事象を数理的に捉える	形を捉える	形の面白さを感じたり、いろいろな形に親しんだりする	いろいろな形に親しみ、比べたり組み合わせたりしながら、形の特徴を感覚で捉える	いろいろな形を比べたり、組み合わせたりしながら、形の特徴を感覚で捉えたり、遊びや生活に形の特徴をいかそうとしたりする
	数・量を捉える	数・量（数、長さ、重さ、大きさ）の多い少ないを感じたり、ものと対応させて数えたりして、数・量に親しむ	数えたり並べたりはかったりして比べ、数・量（数、長さ、重さ、大きさ）の多少を感じる 数・量（数･長さ･重さ･大きさ･時間）の多少や速さを捉えたり、まとまりで捉えたり、操作したりしようとする	
	空間を捉える	高さ、広さ、距離、位置を身体で感じる	高さ、広さ、距離、位置を感覚で捉えようとする 高さ、広さ、距離、位置を感覚で捉えたり、操作したりしようとする	
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
暮らしをつくる	食を見つめる	幼稚園でおやつを食べることを楽しみにする 幼稚園でおやつを食べることや、収穫した野菜を持ち帰って食べることを楽しみにする いろいろな食材に親しみをもったり、幼稚園で先生や友達、お家の人とおやつや弁当を食べる楽しさを感じたりする	いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先生や友達、お家の人とおやつや弁当を食べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食べたりする楽しさを感じたりする	旬の食べ物があることや食べ物の働きを知ったり、喜んで食べたり、食べることを楽しみにして野菜を育てたり、いろいろな食材についての知ったり、いろいろな料理があると感じたり、自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりする
		楽しく心地よく食べるためにした方がよいことを知ったり、自分なりに考えたりしようとする 楽しく心地よく食べるためにした方がよいことを知ったり、自分で気付いたり、先生に確かめたりしてしようとする	楽しく心地よく食べるためにした方がよいことと、その意味を知ったり、自分なりに考えたりしてしようとする	楽しく心地よく食べるためにすべきことの意味が分かってしようとする
	場や状況を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすくなる物の始末の仕方を感じたり、手伝ってもらってしたり、自分でしようとしたりする 自分の周りや、みんなで使う場所が気持ちよく使いやすく楽しくしたいことがしやすくなるような遊びや生活の場の整え方や物の始末の仕方を感じたり、気付いたり、自分なりに考えたりして、整えたり、作ったりしようとする	気持ちよく使いやすく楽しくしたいことがしやすくなるように、物の始末をしたり、遊びや生活の場を選んだり、整えたり、作ったり、作りかえたりしようとする	
	財を活用する	ごっこ遊びを通して、先生や友達と、売ったり買ったりするやりとりを楽しむ ごっこ遊びを通して、先生や友達とお金やカード、チケットを使って売ったり買ったりすることを楽しむ		
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
多様な文化を尊重する		身近な伝統行事に興味をもつ	身近な伝統行事、祝祭日に触れ、関心をもつ 他の地方や他国の存在を感じる	身近な伝統行事、祝祭日に触れ、日本の風習や生活の節目を感じる 他の地方や他国の存在を知ったり、その地の生活の仕方や言葉、衣類などの違いを感じたり、面白いと思ったり、よさを感じたりする
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
社会とのつながりを築く	施設や働く人とつながりをもつ	幼稚園の施設や生活を教えてもらったり感じたりして、幼稚園がどんなところかを知る	幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物に興味・関心をもち、それらがみんなの物であることを知る	施設や施設にある物を使う時にはきまりごとがあると知り、その意味が分かり、きまりごとを守って使おうとする 施設や施設にある物を使う時にはそこでのきまりごとの意味を考えて過ごそうとする
		興味・関心をもって見たり関わったりして、幼稚園のいろいろな人と自分との関係を知る	興味・関心をもって見たり関わったりして、幼稚園のいろいろな人と自分との関係や幼稚園に関わる人の役割を知る	自分の生活に関わる社会の人の役割を考える
	資源の活用を見つめる	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無駄になることはもったいないと感じる 見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無駄になることはもったいないと感じ、大切にしようとする	まだ使えるものを捨ててしまうことや必要以上に使うことをもったいないと感じたり、大切にしようとしたりする まだ使えるものを捨ててしまうことや必要以上に使うことをもったいないと感じたり、取っておこうとしたりする	まだ使えるものを取っておこうとしたり、ものや労力、時間などが無駄にならない使い方を考えて大切に使おうとしたりする
資質・能力のまとまり	資質・能力	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3
		３歳児	４歳児	５歳児

新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組み

ねらいの枠組み

資質・能力の大きなまとまり	【資質・能力のまとまり】定義	資質・能力	ねらい
人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ	
		自分に満足する	
		気持ちをコントロールする	
		自分のことを知る	
	【人とのつながり】人と関わることを通して、他者の思いや考えに気付き、よりよい関係をつくろうとする	他者といる喜びを感じる	
		他者のことを知る	
		自分のことを伝える	
		他者のことを考えて行動する	
		人と物事を進める	
知性につながる資質・能力	体の健康を保つ		
	身を守る		
	身体を操作する		
	自然環境を見つめる		
	生き物・命を見つめる		
	事物・現象を捉える		
	語彙・語句を活用する		
	文章の構成を整える		
	数・量を捉える		
	形を捉える		
	空間を捉える		
	場や状況を整える		
	食を見つめる		
	財を活用する		
	資源の活用を見つめる		
	施設や働く人とつながりをもつ		
	多様な文化を尊重する		
	造形に表す		
	音楽に表す		
	文芸に表す		
	身体の動きに表す		
	演出に表す		

ねらいの中に含めて設定

思考力	【論理的思考力】物事を整理し、順序よく考える力	比較する
		関連付ける
		総合する
		再構成する(※)
		推論する(※)
		論点を抽出する(※)
		批判的に考える(※)
	【問題解決力】問題を見出し、解決方法を導き出し、実行する力	問題を認識する
		豊かに発想し、追求の手立てを構想する
		実行し、その結果を基に判断する

別紙２

学校等の概要

１　学校名、校長名

学校名　：神戸大学附属幼稚園（コウベダイガクフゾクヨウチエン）
校園長名：田中（タナカ）　孝尚（タカナオ）

２　所在地、電話番号、ＦＡＸ番号

所在地　　：兵庫県明石市山下町３－４
電話番号　：０７８－９１１－８２８８
ＦＡＸ番号：０７８－９１４－８１５３

３　学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

３歳児		４歳児		５歳児		計	
幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数
40	2	39	2	38	2	117	6

４　教職員数

園長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1					8					5

ALT	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計
		4		18

５　研究歴

○文部科学省関係

・平成 12～14 年度　研究開発学校
社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした新しい教育システムの開発（神戸大学発達科学部附属幼稚園・小学校・中学校）

・平成 22～24 年度　研究開発学校
幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための新分野創設に向けたカリキュラムと指導方法等の研究開発（神戸大学附属幼稚園）

・平成 25～令和元年度　研究開発学校
幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育９年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発（神戸大学附属幼稚園・小学校）

・平成 28 年度　幼児期の教育内容等深化・充実調査研究
幼小接続の円滑な実施を図るためのカリキュラムのあり方に関する調査研究
幼児期に育みたい資質・能力を支える指導方法と評価に関する研究―幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の観点から―（神戸大学附属幼稚園）

・令和元年度　幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
ICT や先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究

遊びと生活場面における個々の子ども理解と援助の充実につながるICTの活用方法に関する調査研究
［国立大学法人神戸大学（大学院人間発達環境学研究科・附属幼稚園）］

・令和２年度　幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究
位置測位データを活用した個々の幼児の育ちと学びの理解の深化と、教師の省察、家庭との連携の充実につながるICTの活用方法に関する調査研究
［国立大学法人神戸大学（大学院人間発達環境学研究科・附属幼稚園）］

・令和３年度　幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
ICTや先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究
位置測位システムを活用した幼児理解の深化と根拠に基づくカリキュラム・マネジメントによる実践の充実方法に関する調査研究
［国立大学法人神戸大学（大学院人間発達環境学研究科・附属幼稚園）］

令和６年度研究開発実施報告書

１　研究開発課題

幼稚園教育要領における５領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

２　研究開発の概要（別紙１：研究の概要図参照）

幼児教育の独自性の担保に寄与してきた幼稚園教育要領の５領域の構成と幼小における要領上の用語の不一致は、資質・能力の考え方が普及する現在、幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。

そこで、資質・能力の観点から領域の枠組みを再編し、用語の整合性を図ることで、幼小双方の教師、さらには社会一般の幼児教育への理解の深化に資する、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムと指導方法の研究開発に取り組む。

具体的には、以下の取組を実施する。

①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、５領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設

②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発

③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集

④新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価

⑤子どもの追跡調査の実施及び検証

【手段】

具体的な研究開発の手段は以下のように考えている。

①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、５領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設

本園が平成 12 年度から歴史的、継続的に取り組んできた幼小中の連携によるカリキュラム研究により得られた知見を生かし、幼児教育と小学校の双方の教師が資質・能力を育む観点から見出した子どもの育ちを捉え支える資質・能力を見直し、文部科学省より示されている資質・能力を基にその整合性等を検討し、整理することにより、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい幼児教育における新たなねらいの枠組みを創設する。

②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発

幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい用語を整理し、要領上の整合性を図った上で、新たなねらいの枠組みを採用したカリキュラムを開発する。

③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集

第２年次は新たなねらいの枠組み、第３、４年次は開発したカリキュラムによる実践を通した子どもの事実を基に作成した実践記録やドキュメンテーション、保育指導案等で実践データを研究開発学校実施園及び研究協力園において収集するとともに、子どもの学びの実態に着目しながら、資質・能力の発揮、伸長に有効な手立てを、根拠を明確にしながら検証する。その際、常に子どもの事実にこだわり、子どもが何を学んだかを見取ることに主眼を置き、各教師個人による日々の省察、研

究グループによる省察及び全体での省察を行う。
④新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価
　研究協力園も含めた保育実践に加え、これまで幼稚園年長児と小学校１年生との合同学習として、幼小の教師が共同で、幼稚園年長児と小学校１年生に同じねらいを設定し、学習の場を生み出してきている取組を、新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを踏まえて構想する。新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを試行的に架け橋期のカリキュラムに位置付け、幼稚園での学びや学び方、幼児教育における「環境を通して行う教育」の考え方を取り入れた上での実践を通して収集した実践データを基に、架け橋期のカリキュラム及び指導方法、新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの妥当性を検証・評価する。
⑤子どもの追跡調査の実施及び検証
　附属小学校との連携により幼小合同学習の実践データを継続して収集し、小学校１年生のうち、開発したカリキュラムによる保育実践を実施した本園を修了した子どもと外部から入学した子どもとのデータを比較・分析することにより、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における効果を、科学的根拠を基に検証する。

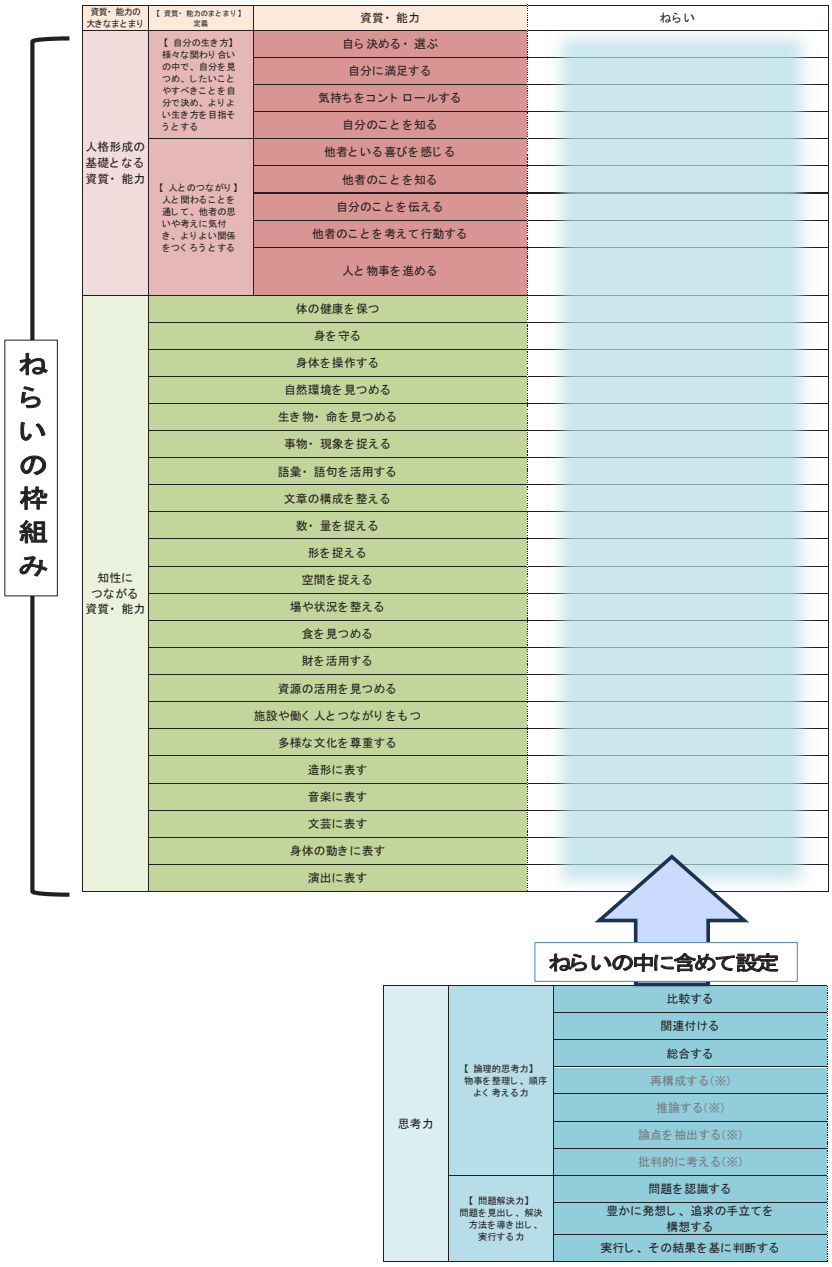
【期待される具体的成果】
本研究開発による実践を通して、次のような成果が得られると考える。
①幼児教育と小学校教育の接続や幼児期の資質・能力の育成を推進することに資する、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすいカリキュラムの構造化や要領上の用語の整理を図ることができる。
②架け橋期を含む子どもの資質・能力の育成に有効な指導方法が明らかとなり、具体的な教育実践が提案できる。
③幼小の教師が共同で学習の場を構想、実践することを通して、幼小における子どもの学びの見取り方や指導方法等の相互理解の深化が図れる。
④子どもの追跡調査により、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における有効性について科学的根拠を基に証明できる。
⑤研究発表会等を通して、幼児教育と小学校教育の接続や子どもの資質・能力の育成の在り方について、地域の幼児教育及び小学校教育関係者との相互理解を促進するとともに、保護者の理解を深めるなど、より一層の連携・協力を推進することができる。

【研究の結果（一年次）】
〇本園の見出している資質・能力の見直しを行う中で、幼児期に育みたい資質・能力の具体を詳細に示している。見直しの中で、人格形成の基礎となる資質・能力のまとまりの中に、「自分のことを知る」の資質・能力を新たに設定した。幼児期に自己理解や自己概念を育むことへの意識の高まりにつながった。
〇また、資質・能力の名称や定義において、さらに、幼児期の関心・感覚といったプロセスや、心情・意欲・態度を大切にする考え方、資質・能力は関連しあって育まれるものであるという考え方を表す表現の工夫の必要が明らかになり、取り組み始めている。
〇文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係を整理した結果、「学びに向かう力、人間性等」と本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知識及び技能の基礎」と本園の見出している

「知性につながる資質・能力」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」と本園の見出している「思考力」は「同等」であると考えた。ただし、「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、重なりをもって示されており、関係性は明確にされていないが、本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知性につながる資質・能力」、「思考力」には重なりはない。資質・能力としては重なりなく捉えられるが、「思考力」は「人格形成の基礎となる資質・能力」や「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される資質・能力であると捉え、三つの資質・能力の関係性を明らかにできた。

〇その上で、幼児期の資質・能力を育む観点からの子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」は、９の「人格形成の基礎となる資質・能力」と22の「知性につながる資質・能力」の計31であり、「思考力」として設定している10の資質・能力については、これら31から成るねらいの枠組みの中に設定していく考え方が理解しやすいことを明らかにした。

新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組み



３　研究開発の経緯

第一年次は、55回の園内研究会、７回の拡大研究会、２回の運営指導委員会を実施、以下の研究を実施した。

（１）本園の見出している資質・能力の見直し

これまでの保育実践やカリキュラム・マネジメントによる集積データを基に、本園の見出している資質・能力について名称や定義、捉え方等を見直した。

◆資質・能力名を幼児期に適したものに見直す

幼児期には、適切さや数理的及び科学的な正確性ではなく、関心・感覚を育むことが重要であると考え、資質・能力名にあった「適切に」「数理的に」「科学的に」という言葉を削除した。

◆資質・能力の定義や捉え方を見直す

事例検討など集積されたデータから、「文芸に表す」「演出に表す」の資質・能力の定義に、話や役の設定、表現方法といった新たな要素を増やしたり、「資源の活用を見つめる」の資質・能力における資源の捉え方を物だけでなく時間や労力も資源であると広げたりした。

◆資質・能力としてのあり方を問い直し、他の資質・能力で捉え直す

扱う対象によって資質・能力が異なるのは本園の資質・能力の考え方にそぐわないと考え、「衣類を整える」の資質・能力を「道具を操る」と「身体を操作する」の資質・能力で捉え直すなどの捉え直しを行った。また、「他者を称賛する」などの資質・能力は、他者のよさに気付いている部分は「他者のことを知る」、感じた思いを伝えようとする部分は「自分のことを伝える」などと具体的な内容によって他の資質・能力で捉えることが望ましいと考え、削除したりした。

◆資質・能力として本質的な違いがあるのかを問い直し、統合する

「人と協力・共同する」と「人と物事を進める」、「事物を捉える」と「現象を捉える」、「心の健康を保つ」と「気持ちをコントロールする」などの資質・能力は、資質・能力として別の力であるのか議論を重ね、本質的な資質・能力としては同じではないかと考え、統合した。

◆汎用的資質・能力（思考力）であるか問い直す

事例検討から、汎用的資質・能力（思考力）のうちの「自分を客観的に把握する」の資質・能力が、他の資質・能力と同時に発揮、伸長するのではなく単独で発揮、伸長されていることから、社会的資質・能力（人格形成の基礎となる資質・能力）として「自分のことを知る」の資質・能力と位置付け、捉え直した。

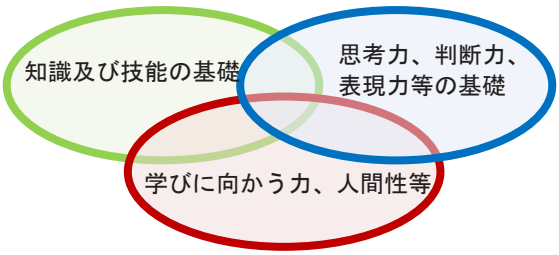
◆大きな資質・能力のまとまりの名称を変更し、定義の言葉で表す

広く理解してもらうという視点から、大きな資質・能力のまとまりの名称を、これまで定義として使っていた言葉で表すこととした。「社会的資質・能力」を「人格形成の基礎となる資質・能力」に、「固有的資質・能力」を「知性につながる資質・能力」に、「汎用的資質・能力」を「思考力」に変更した。

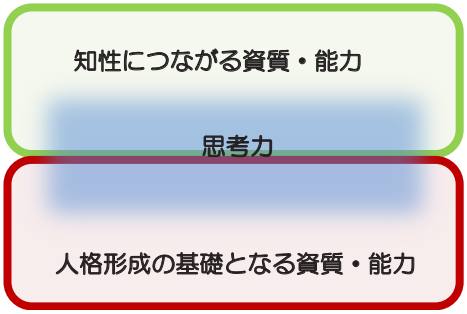
（２）文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理

文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理した結果、「学びに向かう力、人間性等」と本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知識及び技能の基礎」と本園の見出している「知性につながる資質・能力」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」と本園

の見出している「思考力」は「同等」であると考えた。ただし、「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、重なりをもって示されており、関係性は明確にされていないが、本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知性につながる資質・能力」、「思考力」の関係性は、「人格形成の基礎となる資質・能力」と「知性につながる資質・能力」には重なりはなく、「思考力」は「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と重なっており、切り離して捉えることはできないと考えた。



【文部科学省の資質・能力】



【神戸大学附属幼稚園の資質・能力】

（３）新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定

このように再整理した資質・能力を基に、幼児期の資質・能力を育む観点からの子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」を検討した結果、別紙１−２に示すとおり、「思考力」と設定している10の資質・能力については、９の「人格形成の基礎となる資質・能力」と22の「知性につながる資質・能力」、計31から成るねらいの枠組みの中に設定していく考え方が理解しやすいと考える。

４　研究開発の内容

（１）本園の見出している資質・能力の見直しによる教育課程の編成

前回の研究開発において小学校とともに見出した資質・能力を、令和２年度以降の保育実践やカリキュラム・マネジメントによる集積データを基に、本園の見出している資質・能力について名称や定義、捉え方等を見直した。

見直した具体を以下に示す。

神戸大学附属幼稚園・小学校　資質・能力（令和元年 12 月）

資質・能力の大きなまとまり 定義	【資質・能力のまとまり】 定義	資質・能力
社会的 資質・能力 人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】 様々なかかわり合いの中で，自分を見つめ，したいことやすべきことを自分で決め，よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ
		自分に満足する
		気持ちをコントロールする
		よりよい自分に向かう
	【人とのつながり】 人とかかわることを通して，他者の思いや考えに気付き，よりよい関係をつくろうとする	他者といる喜びを感じる
		他者のことを知る
		自分のことを伝える
		他者のことを考えて行動する
		他者を称賛する
		人と協力・共同する
		人とものごとをすすめる
固有的 資質・能力 知性につながる資質・能力	【心身の健康を保つ】 心身の成長や変化，周囲の状況に気付き，安心で健康な生活をつくる	心の健康を保つ
		体の健康を保つ
		身を守る
		身体を操作する
	【人と自然とのあり方をみつめる】 豊かな自然体験を通して，その美しさや不思議さに触れる中で，自然や生命に対する理解を深め，望ましい自然観・生命観を養う	自然環境をみつめる
		生き物・いのちをみつめる
	【事象を科学的にとらえる】 ものがもつ性質やものやこと同士の関係のなかで起こる現象に対して，科学的に分析・思考しながら法則を見いだす	事物を科学的にとらえる
		現象を科学的にとらえる
	【感動を表現する】 思いや世界観が表現されているもののよさを感じたり，イメージをふくらませ自分らしく表現することを楽しんだりしながら，豊かな感性を養う	造形に表す
		音楽に表す
		文芸に表す
		身体の動きに表す
		演出に表す
	【言語を適切に活用する】 文字言語や音声言語を獲得し，思いや考えを適切に伝えようとする	語彙・語句を適切に活用する
		文章の構成を整える
		文字を適切に書く
		言葉を適切に使い分ける
	【事象を数理的にとらえる】 数・量や図形，場を対象とした思考を通して，身の回りの事象を分析的に判断しようとする	形を数理的にとらえる
		数・量を数理的にとらえる
		空間を数理的にとらえる
	【くらしをつくる】 くらしを豊かにするための要素や方法について考え，取り組もうとする	食をみつめる
		衣類を整える
		道具をあやつる
		住空間を整える
		財を活用する
		多様な文化を尊重する
	【社会とのつながりを築く】 自分たちの生活を支える人・もの・ことについて知り，持続可能な社会の実現を目指そうとする	施設や働く人とつながりをもつ
		資源の活用をみつめる
		過去とのつながりをとらえる
		土地の特色をとらえる
		平和を求める
		メディアを活用する
汎用的 資質・能力 思考力	【論理的思考力】 ものごとを整理し，順序よく考える力	比較する
		関連付ける
		総合する
		再構成する
		推論する
		論点を抽出する
		批判的に考える
	【メタ認知力】	自分を客観的に把握する
	【問題解決力】 問題を見出し，解決方法を導き出し，実行する力	問題を認識する
		豊かに発想し，追求の手立てを構想する
		実行し，その結果をもとに判断をくだす

神戸大学附属幼稚園　資質・能力（令和７年１月）

資質・能力の大きなまとまり	【資質・能力のまとまり】 定義	資質・能力
人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ
		自分に満足する
		気持ちをコントロールする
		自分のことを知る
	【人とのつながり】 人と関わることを通して、他者の思いや考えに気付き、よりよい関係をつくろうとする	他者といる喜びを感じる
		他者のことを知る
		自分のことを伝える
		他者のことを考えて行動する
		人と物事を進める
知性につながる資質・能力		体の健康を保つ
		身を守る
		身体を操作する
		自然環境を見つめる
		生き物・命を見つめる
		事物・現象を捉える
		語彙・語句を活用する
		文章の構成を整える
		数・量を捉える
		形を捉える
		空間を捉える
		場や状況を整える
		食を見つめる
		財を活用する
		資源の活用を見つめる
		施設や働く人とつながりをもつ
		多様な文化を尊重する
		造形に表す
		音楽に表す
		文芸に表す
		身体の動きに表す
		演出に表す

「人格形成の基礎となる資質・能力」や「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される資質・能力

思考力	【論理的思考力】 物事を整理し、順序よく考える力	比較する
		関連付ける
		総合する
		再構成する(※)
		推論する(※)
		論点を抽出する(※)
		批判的に考える(※)
	【問題解決力】 問題を見出し、解決方法を導き出し、実行する力	問題を認識する
		豊かに発想し、追求の手立てを構想する
		実行し、その結果を基に判断する

◆資質・能力名を幼児期に適したものに見直す

・「語彙・語句を適切に活用する」の資質・能力名から「適切に」を削除する

「語彙・語句を適切に活用する」の資質・能力を「語彙・語句を豊富に獲得し、活用しようとする」と定義していた。資質・能力を検討する中で、幼児期に言葉を「適切に」活用することが重要なのかという疑問をもった。適切さが重要なのではなく、語彙・語句への関心や感覚を育むことを大切にしたいと考え、適切さが想起される言葉を削除した。

・「形を数理的に捉える」「数・量を数理的に捉える」「空間を数理的に捉える」

の資質・能力名から「数理的に」を削除する

幼児期は、形、数・量、空間などを主観的な感覚で捉えており、それらへの関心・感覚を育むことが重要だと考え、教師は正確性を求めずに支えている。資質・能力名に「数理的に」が入ることで、数理的な正確性を求めていることが想起されることを危惧し、資質・能力名から「数理的に」という言葉を削除した。

・「事物を科学的に捉える」、「現象を科学的に捉える」の資質・能力名から「科学的に」を削除する

幼児期では、ものやこと同士の性質や特徴、関係性を主観的な感覚で捉えており、それらの面白さや不思議さを感じたり楽しんだりすることや、それらへの関心・感覚を育むことが重要だと考え、教師は正確性を求めずに支えている。「数理的に」と同様に、資質・能力名に「科学的に」が入ることで、科学的な正確性を求めていることが想起されることを危惧し、資質・能力名から「科学的に」という言葉を削除した。

◆資質・能力の定義や捉え方を見直す

・「文芸に表す」の定義に「設定」の要素を加える

事例検討の中で、話の設定や役の設定を考える姿は、話を面白くするという視点で捉えると「演出に表す」の資質・能力が発揮・伸長された姿としても捉えられるのではないかと考えた。しかし、検討をしていく中で、話や役の設定をより面白くなるために考える力を「文芸に表す」の資質・能力として整理した。定義にも整理したことが表れるように、「文芸に表す」の資質・能力の定義に、「話や役等の設定」という言葉を加え、設定の要素を位置付けた。

・「演出に表す」の定義に「表現方法を考える」を加える

「演出に表す」の資質・能力の定義は、「配役や場のとり方、プログラムの順序などのよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする」としていた。教育課程のねらいには、例えばショーごっこの遊びで、ドレスがあればアイドルっぽくなれると考え、ドレスを作ろうとするといった「自分のなりたいものをよりそれらしく表現するために道具、衣装など必要なものを考える」と設定していたが、定義にはそのことが記されていなかった。また、そのことで「文芸に表す」の資質・能力との棲み分けに迷いが生じていた時もあった。そのため、資質・能力を明確に表すために「表現方法を考えたり」という言葉を定義に加えた。

・「資源の活用を見つめる」の捉えを広げる

「資源の活用を見つめる」の資質・能力の定義は「限りあるものの適切な使い方や使う量を考え、大切に扱おうとする」である。限りあるものとして、紙などの素材、電気や水などを大切にする姿を捉えたりねらったりしてきた。事例検討で、実践事例「ポンポンを作って踊りたい」（令和２年度年長児）において、時間を有効に使う姿が、実践事例「葉っぱをたくさん集めたい」（令和４年度年長児）において、一度の労力でできるだけ多くのことをしようと工夫する姿が見られ、その姿がどこに位置付くのか疑問に上がり議論した。そうして、定義にある「限りあるもの」の捉えを広げ、物だけでなく時間や労力を大切にする力も、限りあるものの使い方を考えていく力である「資源の活用を見つめる」の姿と捉えていくこととした。

・「住空間を整える」の捉えを広げ、「場や状況を整える」の資質・能力名に変更し、定義を見直す

「住空間を整える」の資質・能力の定義は、「快適で心地よい生活空間を知り、整える」としていた。実践事例「ゴムってすごい！」（令和３年度年長児）において、子どもがつながったゴムの数を数えている場面で「床に置いたままだと絡まったゴムが見えにくいので、持ち上げてからゴムを数えよう」と考えている力は、「住空間を整える」の資質・能力が発揮されている力だと考えるが、その際、「住空間を整える」という資質・能力名でこのような姿がイメージできるか懸念された。続いて、実践事例「ボール何回つけるかな」（令和４年度年長児）において、ボールをつきやすいように壁から離れている子どもの姿があった。ここは狭い、こっちは広いと、壁との距離を感じて離れているところは、「空間を捉える」の資質・能力が発揮されている姿といえるが、広いところでやった方がやりやすいと、今あるこの場をどうすれば快適な状況にできるか考え、やりにくい状況を変えようと広いところに場所を選んでいる力も、「住空間を整える」の資質・能力が発揮されているといえるという結論に至った。しかし、前述の検討と同様、本当に「住空間を整える」という資質・能力名が適当であるのか疑問に残った。更に、何人かで話をする時、話がしやすいように円を描くように座って話をする姿や、手を洗いやすいように洋服の袖をまくるなどの身なりを整える姿も、「住空間を整える」という資質・能力名では言い表しにくいのではないかという意見があり、適切な資質・能力名を摸索し続けることになった。その後、「住空間を整える」を「場や状況を整える」とすれば、必要な状況が含まれると考え、資質・能力名を「場や状況を整える」とおき、定義を「快適で心地よく、したいことがしやすい場や状況を知り、整える」としてそれ以降の事例の中で検証し、確定した。

◆資質・能力としてのあり方を問い直し、他の資質・能力で捉え直す

・「衣類を整える」の資質・能力を、「道具を操る」と「身体を操作する」の資質・能力に分けて位置付ける

「衣類を整える」の資質・能力には、「気候等の状況に合わせて衣類を選ぶ力」と、「衣類を身につけるなどして扱う際の動きの力」が位置付けられていた。それぞれ扱う対象が衣類でないものは「道具を操る」と「身体を操作する」の資質・能力として位置付けられており、扱う対象が衣類であるからという理由で資質・能力が異なるのは、本園の資質・能力の考え方にそぐわないと考えた。よって、それぞれの力を「道具を操る」と「身体を操作する」の資質・能力に位置付けた。

・「メディアを活用する」の資質・能力を、「道具を操る」の資質・能力に位置付ける

「メディアを活用する」の資質・能力は、その他の道具の扱いに関する資質・能力である「道具を操る」の資質・能力とは別に、情報の収集、発信に関する道具の扱いについてのみ取り出されている状態を生み出していた。扱う対象が情報であるからという理由で資質・能力が異なるのは、本園の資質・能力の考え方にそぐわないと考えた。よって、情報の収集、発信に関する道具を扱う力を「道具を操る」の資質・能力に位置付けた。情報リテラシーについては、「他者のことを考えて行動する」や「身を守る」の資質・能力等に位置付いていると考えた。

・「道具を操る」の資質・能力を、「事物を捉える」や「身体を操作する」などの資質・能力との棲み分けを明確にしたり、整理して位置付けたりする

「道具を操る」の資質・能力は、道具と呼ばれる物の特徴を捉える力と、道具を操作して扱う力、道具を選ぶ力、道具を丁寧に扱う力で構成されていた。資質・能

力の観点を用いてねらいを設定したり子どもの学びを見取ったりする中で、それぞれの力は他の資質・能力に既に位置付いていたり、整理して位置付けることができたりするのではないかと考えた。

道具の特徴を捉える力は、物の性質や特徴を見出す力である「事物を捉える」から道具を対象とした場合のみを取り出した状態であると考えた。道具を操作して扱う力は、指先等を含む体を使って物を操作し扱う力である「身体を操作する」から道具を対象とした場合のみを取り出した状態であると考えた。そのことを改善するために、道具の性質や特徴を見出す力は「事物を捉える」の資質・能力に、道具を操作して扱う力は「身体を操作する」の資質・能力に位置付けることとした。

道具を選ぶ力については、自分のイメージに合わせて使う素材を選んで表現する力は「造形に表す」の資質・能力に位置付いているなど、その目的によって各資質・能力に位置付いていると考えた。道具を丁寧に扱う力については、愛着や好みなどによって大切にしている力は「自ら決める・選ぶ」の資質・能力、もったいなくないように大切にしようとする力は「資源の活用を見つめる」の資質・能力に位置付けられると考えた。

・「よりよい自分に向かう」を、内容によって「自ら・決める、選ぶ」「気持ちをコントロールする」「他者のことを考えて行動する」「人と物事を進める」「生き物・命を見つめる」等で捉える

「よりよい自分に向かう」の資質・能力の定義は「よりよい方向に向けて、した方がよいと思うことをしようとする」であった。この資質・能力について、令和２年度から、事例検討を繰り返す中で、幾度となく、他の資質・能力との棲み分けの難しさが話題になり、次第に、何にとってよいと考えるか、その内容によって、すでにある他の資質・能力の発揮、伸長の姿と捉えることができると結論づけた。例えば、実践事例「野菜の看板を作ろう！」（令和２年度年長児）において、「花を摘んではいけない」と考えている姿は、生き物の命を大切にしようとする「生き物・命を見つめる」の資質・能力や、幼稚園という施設において、育てられている植物の扱いを考えようとする「施設や働く人とつながりをもつ」の資質・能力の発揮、伸長の姿と捉えた。そのほかにも、何にとって「よりよい」かについて、友達にとってよいと判断している場合は「他者のことを考えて行動する」の資質・能力、みんなで進めていくためによいと判断している場合は、「人と物事を進める」の資質・能力、どんな自分になりたいかなど自分にとってよいと判断している場合は「自ら決める・選ぶ」の資質・能力の発揮、伸長と捉えるなど、令和５年度まで、事例検討やカリキュラム・マネジメント等で確かめ続けてきた。また、「よりよい自分に向かう」の資質・能力のねらいには、「自分の行動を振り返ってよしあしを考える」ことが入っているが、これについては、何にとってよいと考えるか他の資質・能力を発揮、伸長していく中で、一人一人の価値基準は育つこと、社会一般的な価値観ではなく、何にとってよいのかよくないのかを子ども自身が自分で考えていくことが重要であることを確かめた。さらに、善悪の判断に対してねらいをもつことは、価値観の押し付けになる恐れがあるとも考えたことから、「よりよい自分に向かう」の資質・能力の観点は削除することが望ましいと判断した。

・「他者を称賛する」の資質・能力を、「他者のことを知る」と「自分のことを伝える」の資質・能力で捉える

「他者を称賛する」の資質・能力は、定義を「他者のよさや頑張りに気付き、褒めたたえようとする」としていた。前半の「他者のよさや頑張りに気付く」力は

「他者のことを知る」の資質・能力に当てはまる。後半の「褒めたたえようとする」力は、本当にねらいを設定して子どもに育みたい力なのかを問い直した。他者を褒めることを促すというよりも、まずは「他者のことを知る」の資質・能力を発揮して、他者のよさや頑張りに気付いてその素晴らしさを感じ、「自分のことを伝える」の資質・能力を発揮して、その感じた思いを相手に伝えたいと思って言葉にして伝えようとすることを育んでいきたいのだと考えを整理することができた。さらに、他者の思いを考えたり思いやったりして褒めることは「他者のことを考えて行動する」の資質・能力が発揮されている姿だといえるため、単に「他者を褒める力」と括るのではなく、その根源にある力を捉え、支えていくことが望ましいと考えた。

◆資質・能力に本質的な違いがあるのか問い直し、統合する

・「人と協力・共同する」と「人と物事を進める」の資質・能力を「人と物事を進める」の資質・能力に統合する

「人と共通の目的や目標に向かって、自分にできることをしようとする」という定義をもつ「人と協力・共同する」の資質・能力と、「人と共通の目的や目標に向かって、見通しをもち、必要なことを決めたり、互いの役割を意識しながら責任を果たそうとしたりする」という定義をもつ「人と物事をすすめる」の資質・能力は、本当に別の力なのかという議論は、１０視点カリキュラムで二つの下位項目として捉えていた頃から行われており、二つを分けて捉えることで分析的に子どもの学びを見取り、支えることができると考えてきた。しかし、１０視点カリキュラムにおける視点、下位項目を資質・能力として捉え直したことで、二つは力としては同じ資質・能力であり、学びの見取りや学びを支えるねらいのポイントとしてもっておくとよい観点だと判断した。よって、「人と協力・共同する」と「人と物事を進める」を「人と物事を進める」に統合し、教育課程や月の指導計画で設定していた双方の資質・能力のねらいを「人と物事を進める」の資質・能力のねらいとして位置付けた。

・「事物を捉える」と「現象を捉える」を「事物・現象を捉える」に統合する

実践事例「鏡で先生が見えたよ！」（令和３年度年少児）より、鏡を通して自分、友達、先生を見ている場面で、「離れたところから見ても鏡に自分と友達と先生が写っていることが面白い」という子どもの心情を捉えた。その時の子どもの心情は、「鏡自体の面白さを感じる」という「事物を捉える」の資質・能力を発揮、伸長している姿なのか、「場所を移動して離れたところから鏡を見ても写る物が変わらないことに面白さを感じる」の「現象を捉える」の資質・能力を発揮、伸長している姿なのか、そのどちらもなのかが議論になった。これまでも議論を重ねる中で、「事物を捉える」と「現象を捉える」の資質・能力を分ける必要があるのか、異なる資質・能力なのかという議論はあったが、この事例が２つの資質・能力を区別することが難しいことを最も示しており、この事例検討をきっかけとして再度資質・能力を捉え直し、「事物」と「現象」は表裏一体で微妙な言い方の違い、捉え方の違いであって本質的な資質・能力としては同じではないかという考えに至った。結果、「事物を捉える」「現象を捉える」を「事物・現象を捉える」に統合した。

・「文字を適切に書く」と「言葉を適切に使い分ける」を「語彙・語句を活用する」に統合する

「文字を正しくとらえ、書こうとする」と定義していた「文字を適切に書く」の資質・能力と、「言葉の使い方を考えて、使い分けようとする」と定義していた「言葉を適切に使い分ける」の資質・能力の違いは、言葉を発するか文字として書くかにあり、言葉に関する資質・能力としてまとめて「語彙・語句を活用する」の資質・能力に入るのではないかということがカリキュラム・マネジメントで話題にあがり、議論した。語彙・語句を理解していることで言葉を使い分けることができ、文字に書くことができると考え、文字にしていく際の手首や動かし方などの動きのことは「身体を操作する」の資質・能力、書く物の選択や扱いは「道具をあやつる」の資質・能力に位置付けた。そして文字に関心をもつ力や言葉を使い分ける力などは、「語彙・語句を活用する」の資質・能力のねらいの筋に位置付け、「文字を適切に書く」の資質・能力と「言葉を適切に使い分ける」の資質・能力を「語彙・語句を活用する」の資質・能力に統合した。

・「心の健康を保つ」を「気持ちをコントロールする」に位置付ける

「心の健康を保つ」の資質・能力の定義は、「自分の心の居場所を探り、安心しようとする」であり、新しい環境や初めての場面などで緊張したり不安を感じたりしている姿を捉えていた。令和３年度から、この「心の健康を保つ」の資質・能力と、定義「よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする」の「気持ちをコントロールする」の資質・能力の棲み分けが議論に上がるようになった。実践事例「ウォータースライダーを滑りたい」（令和３年度年長児）の検討において、一度は、「怖くて滑れない」という不安の感情を落ち着かせようとしている姿を「心の健康を保つ」の資質・能力を発揮、伸長している姿と捉え、「怖いけど滑ってみよう」と切り替えようとしている姿を「気持ちをコントロールする」の資質・能力を発揮、伸長している姿と捉えると仕分けた。しかし、事例検討で議論を重ね、不安、緊張、喜怒哀楽などの感情の種類で、気持ちを落ち着かせようとする資質・能力が変わることはおかしいと捉え直した。そうして、「心の健康を保つ」の資質・能力の観点はなくし、これまで示してきた「心の健康を保つ」の資質・能力の育ちに向けたねらいを、「気持ちをコントロールする」の資質・能力のねらいの一つの筋として位置付けた。

◆汎用的資質・能力であるか問い直す

・汎用的資質・能力の「自分を客観的に把握する」を、社会的資質・能力の「自分のことを知る」として捉え直す

これまで汎用的資質・能力は社会的資質・能力または固有的資質・能力と同時に発揮、伸長されると捉えていたが、本当に単独で表れることはないのかと考え続けてきた。事例検討を通して、「嫌だという思いを落ち着かせてきたことを自覚している」という子どもの姿を、「自分を客観的に把握する」の資質・能力が単独で発揮・伸長された姿と捉えた。検討を重ねる中で、「自分のことを知る」という資質・能力を汎用的資質・能力ではなく、社会的資質・能力（「自分の生き方」）に仮に設け、自分のことに気付こうとする力と考えて置き、他の資質・能力に含まれていることはないかも併せて検討してきた。検討を重ね、社会的資質・能力の１つとして位置付ける必要があることで一致し、新たな社会的資質・能力として「自分のことを知る」を位置付け、「自分に関心を向け、自分の思いや状態、性格等に気付いたり認めたりしようとする」と定義し、捉え直した。

◆大きな資質・能力のまとまりの名称を変更し、定義の言葉で表す

広く理解してもらうという視点から、大きな資質・能力のまとまりの名称を、これまで定義として使っていた言葉で表すこととした。「社会的資質・能力」を「人格形成の基礎となる資質・能力」に、「固有的資質・能力」を「知性につながる資質・能力」に、「汎用的資質・能力」を「思考力」に変更した。また、表記に使用していた色についても、文部科学省の示す資質・能力との関係性の整理や理解のしやすさから、変更した。同時に、知性につながる資質・能力について、関連の強い資質・能力を並べるなどの並び替えも行なっている。

以下に、令和７年１月現在の神戸大学附属幼稚園　資質・能力の定義を示す。

神戸大学附属幼稚園　　資質・能力の定義（令和７年１月現在）

資質・能力の大きなまとまり	【資質・能力のまとまり】定義	資質・能力	資質・能力の定義
人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ	興味・関心をもったり、目的や目標を定めたりして、その実現に向けて見通しをもち、やり遂げようとする
		自分に満足する	自分の成長を自覚し、自らの価値に気付く
		気持ちをコントロールする	よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする
		自分のことを知る	自分に関心を寄せ、自分の思いや状態、性格などに気付いたり、それを認めようとしたりする
	【人とのつながり】人と関わることを通して、他者の思いや考えに気付き、よりよい関係をつくろうとする	他者といる喜びを感じる	他者と関わる心地よさや嬉しさ、よさを感じてつながりを大切にしようとする
		他者のことを知る	他者に関心をもち、思いや考え、個性を認めようとする
		自分のことを伝える	相手に分かるように、自分の思いや考えを行動や言葉で伝えようとする
		他者のことを考えて行動する	他者に寄り添い、相手にとってよいと思うことをしようとする
		人と物事を進める	人と共通の目的や目標に向かって、自分にできることをしようとしたり、見通しをもって必要なことを決めたり、互いの役割を意識しながら責任を果たそうとしたりする
知性につながる資質・能力	体の健康を保つ		健康の保持・増進に関心をもち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする
	身を守る		自分の状態や周囲の状況に気付き、安全について考え行動しようとする
	身体を操作する		運動の特性に応じた身体の使い方をしようとする
	自然環境を見つめる		空や雲、土、天体など、自然環境の美しさや不思議さに触れる中で、自然に対する理解を深める
	生き物・命を見つめる		生き物の美しさや不思議さに触れる中で、生命に対する理解を深める
	事物・現象を捉える		科学的に分析・思考しながら、性質や特徴を見出したり、ものやこと同士の関係性を捉えたりする
	語彙・語句を活用する		語彙・語句を豊富に獲得し、活用しようとする
	文章の構成を整える		文章の構成を考えて、整えようとする
	数・量を捉える		数・量を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする
	形を捉える		図形を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする
	空間を捉える		場を対象とした思考を通して、身の回りの事象を分析的に判断しようとする
	場や状況を整える		快適で心地よい生活空間を知り、整えようとする
	食を見つめる		食べることの楽しさを感じたり、様々な食文化について知り、取り入れようとしたりする
	財を活用する		売買の仕組みやサービスについて知り、お金を適切に扱おうとする
	資源の活用を見つめる		限りあるものの適切な使い方や使う量を考え、大切に扱おうとする
	施設や働く人とつながりをもつ		施設や働く人の役割を知り、自分の関わり方を考える
	多様な文化を尊重する		自国の文化や他国の文化のよさや互いの文化の違いを知り、認めようとする
	造形に表す		色や形、素材の生かされ方のよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする

	音楽に表す	音の響き、リズム、テンポやメロディーのよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	文芸に表す	話の展開や内容、話や役などの設定、言葉のよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	身体の動きに表す	動作や表情、声の調子などのよさを感じたり、それらを使って表現しようとしたりする
	演出に表す	配役や場の取り方、プログラムの順序などのよさを感じたり、表現方法を考えたり、それらを使って表現しようとしたりする

「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される資質・能力

思考力	【論理的思考力】 物事を整理し、順序よく考える力	比較する	対象と視点を明確にしながら、差異点や共通点を見付け出す
		関連付ける	対象と視点を明確にしながら、その間にあるつながりを見付け出す
		総合する	比較したり関連付けたりしたことを基に、考えをまとめる
		再構成する(※)	自分の知識や考えを、より妥当性の高いものに更新する
		推論する(※)	比較・関連付けして得られた明確な根拠を基に、何らかの考えに至る
		論点を抽出する(※)	話の中心になるところを探り、目的に応じて絞り込み、確定する
		批判的に考える(※)	思考・判断に必要な情報の確かさを疑う
	【問題解決力】 問題を見出し、解決方法を導き出し、実行する力	問題を認識する	ある目的を達成するための問いを生む
		豊かに発想し、追求の手立てを構想する	ある目的を達成するための方法を直感的・論理的に考え、最適な考えを選ぶ
		実行し、その結果を基に判断する	実行を基に、目的が達成されたかどうかその過程が適切であったかどうかを評価する

(※)現時点で神戸大学附属幼稚園の指導計画において、ねらいの言葉に表れてはいないが、表出された子どもの姿から見取ったり、子どもの姿に応じて教師の意図に含み込んで支えたりする資質・能力として存在しているもの。

これら資質・能力について、９の「人格形成の基礎となる資質・能力」と22の「知性につながる資質・能力」の計31をねらいの枠組みとし、10の「思考力」の資質・能力は、これら31の資質・能力のねらいの言葉に含み込み、「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長することを支えていくものだと考え、教育課程や指導計画（月の指導計画、日の指導計画、遊びや生活のまとまりの計画）を編成している。（教育課程資料　別紙２参照）

短期の指導計画や遊びや生活のまとまりの計画においては、「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」のねらいに「思考力」のねらいが含み込まれていることが明確になるように、下線をつけて対応を表している。

ねらい	資質・能力
①自分のしたいこと、友達にしてほしいこと、遊びをもっと面白くする考え、気持ちなどを友達に直接伝えようとしたり、実物を見せたり言い方を変えたり繰り返し伝えたりして、友達に伝わるまで伝えようとして伝えるよさを感じる。	自分のことを伝える 豊かに発想し、追求の手立てを構想する
②１つの素敵なお店をするために、自分ができることを考えてしようとしたり、それぞれのしたいことをどう繋げられそうかみんなが納得するまで話し合おうとしたり、友達がしていることを知って一緒に考えたり試したり作ったりしようとする。	人と物事を進める 総合する
③お客さんが楽しく、また本物らしくするために、形や色、感触などを感じて素材を選んだり、組み合わせたり、友達の表現のよさを取り入れたりして、様々に工夫しながらこだわって作ったり、作ったものを試して作り替えたりすることを楽しむ。	造形に表す 問題を認識する 豊かに発想し、追求の手立てを構想する 実行し、その結果を基に判断する

（令和６年 11 月 30 日年長児さくら組保育指導案より抜粋）

設定したねらいが達成されるよう、子どもの実態や発達に応じながら教師の援助や環境の構成及び再構成を計画している。その際、育みたい資質・能力との対応を明確に示している。また、教師の援助や環境の構成及び再構成は、意図と行為をセットにして表している。そうすることで、どんな資質・能力の発揮、伸長を支えるために、どういった関わりや環境の構成及び再構成を行うのか、明確にして保育を行うことができる。さらに、人格形成の基礎となる資質・能力及び知性につながる資質・能力と同時に発揮・伸長することを支える思考力の資質・能力については、援助の方向性を明確に示した意図や行為の言葉に含み込んで表すことで、思考力の資質・能力の発揮・伸長を支える関わりを明らかにしている。

ねらい		資質・能力
③お客さんが楽しく、また本物らしくするために、形や色、感触などを感じて素材を選んだり、組み合わせたり、友達の表現のよさを取り入れたりして、様々に工夫しながらこだわって作ったり、作ったものを試して作り替えたりすることを楽しむ。		造形に表す 問題を認識する 豊かに発想し、追求の手立てを構想する 実行し、その結果を基に判断する
予想される子どもの活動	＊環境の構成及び再構成　◎教師の援助	◇評価の観点
・必要な道具や素材を準備する ・作ろうと思っていたものを作ったり作り替えたりする ・友達の作ったものを見て感じたことを伝える	＊お客さんが楽しく本物らしくするためにいろいろに工夫してこだわって作ろうと思えるように、本物の矢や武器の図鑑などを子どもが手に取れる場所に置いておいたり、インターネットですぐに調べられるパソコンを用意しておく。 ◎お客さんが楽しく本物らしくするために作ったものを試して作り替えようと思えるように、試してみて感じたことを尋ねたり、どうしたらもっと素敵になるか一緒に考えたりする。	◇矢や図鑑などをよく見て特徴を話したり素材を見比べたりしているか③ ◇試したり考えを話したり作り替えたりしているか③

（令和 6 年 11 月 30 日年長児さくら組保育指導案より抜粋）

（２）編成した教育課程の内容の評価

〇ねらいや手立て等の集積や改善

保育実践を通して子どもの資質・能力が発揮、伸長された姿を、子どもの事実を基に捉えている。その際、ドキュメンテーションでは、取り上げた遊びや生活で見取った子どもの学びを表に整理している。また、事実と解釈を分けて客観性を担保するフォーマットを使用した実践事例は、職員間で事例検討を行い、より詳細で具体的な振り返りを行い、子どもが資質・能力を発揮、伸長する姿の丁寧な捉えや、教師の手立ての有効性の確認と改善を行なっている。今年度 12 月までに検討した事例は以下の 11 事例である。

3歳	R6.6	「用意をして一緒に遊ぼう！」
	R6.12	「大根獲りたい！」
4歳	R6.6	「ドキドキする時はどうする？」
	R6.6	「言い方きつくなっちゃってた？」
	R6.6	「お部屋に戻ろう」
	R6.12	「捕まりそうになったらどうする？」

	R6.12	「ターザンロープに跳び乗れた！」
5歳	R6.7	「的を倒されないようにするために」
	R6.7	「どうしてトウモロコシは黄色くなるの？」
	R6.12	「お弁当を一緒に食べよう！」
	R6.12	「みんなで演奏会をしよう！」

今年度１学期の事例において手立ての有効性を確かめられた資質・能力は以下のとおりである。

令和６年度１学期に検討した実践事例		手立ての有効性を確かめられた資質・能力
３歳６月	「用意をして一緒に遊ぼう！」	「気持ちをコントロールする」「自分のことを知る」「他者といる喜びを感じる」「他者のことを考えて行動する」
４歳６月	「ドキドキする時はどうする？」	「気持ちをコントロールする」「自分のことを知る」「他者のことを考えて行動する」
４歳６月	「言い方きつくなっちゃってた？」	「自分のことを知る」「他者のことを考えて行動する」
４歳６月	「お部屋に戻ろう」	「自分のことを知る」「他者のことを考えて行動する」「自分のことを伝える」
５歳７月	「的を倒されないようにするために」	「自分のことを伝える」「事物・現象を捉える、推論する」「事物・現象を捉える、豊かに発想し、追求の手立てを構想する」「事物・現象を捉える、実行し、その結果を基に判断する」
５歳７月	「どうしてトウモロコシは黄色くなるの？」	「自ら決める・選ぶ」 「生き物・命を見つめる」

〇人格形成の基礎となる資質・能力に、「自分のことを知る」の資質・能力を新たに位置付けたことによる成果

昨年度までは思考力の一つとして位置付けていた「自分を客観的に把握する」の資質・能力を、人格形成の基礎となる資質・能力のまとまりの中の一つの資質・能力と捉え直し「自分のことを知る」として位置付けたことで、保育の計画や実践、子どもの姿の見取りや保育の省察を意識して行ってきた。上に示すように、「自分のことを知る」の資質・能力についての学びや有効な手立てについて検討を重ね、３年間を通したねらいを検討する根拠となる事例を集積し作成しているところである。

人格形成の基礎となる資質・能力に「自分のことを知る」と位置付けたことで、自分の頑張りや成長を自覚する面だけでなく、自分のしてしまったことや自分の言動の意味すること、自分の状態や気持ちなどさまざまな自分を自覚することにもねらいをもち、見取り、支えられるようになってきている。昨年度までのねらいとの違いの一例を示す。

遊びや生活のまとまりの計画　５歳児「発表会」より一部抜粋

（斜体部分が前年度からの変更点）

＜令和５年度＞

ねらい	資質・能力
②自分達が発表したいこと~~を創り出し~~に取り組みながら、実現したいことに近付いたと感じて喜んだり、自分達で諦めずにやり遂げたりしたことに満足したり、自分の考えに自信をもったり、頑張りや成長を感じたりする。	自分に満足する 自分を客観的に把握する

↓

＜令和６年度＞

ねらい	資質・能力
②自分達が発表したいことに取り組みながら、実現したいことに近付いたと感じて喜んだり、自分達で諦めずにやり遂げたりしたことに満足したり、自分の考えに自信をもったり、頑張りや成長を感じたりする。	自分に満足する ~~*自分を客観的に把握する*~~
④グループの友達に言葉にしてもらったり、認めてもらったり、自分で振り返ったりして、自分の言動やその意味、頑張り、好きなことや苦手なこと、言い方、状態、気持ち、個性を自覚したり認めたりする。	*自分のことを知る*

〇思考力の資質・能力の捉えやねらいの見直しへの課題

思考力の 10 の資質・能力の中には、表出された子どもの姿の見取りや、子どもの姿に応じて教師の意図に含み込んで支えているものの、短期の指導計画や遊びや生活のまとまりの計画においては、ねらいの言葉に対応する箇所が明確に表せていない資質・能力が存在していることが明らかになった。また、「神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧」のねらいの言葉に、その他の思考力のねらいについても十分に表せているのかについても見直しを始めたところである。さらに、思考力の資質・能力についての捉えが十分に深まっているのか、10 の資質・能力で十分に示すことができているのか、どういった関連を持って発揮、伸長していくのかなども検討を進めていく。

５　研究開発の成果

（１）子どもへの効果

a. 詳細な観点の資質・能力カリキュラムによる多様な資質・能力の発揮、伸長

本園の見出している資質・能力の観点で作成した教育課程に基づいて実践及び実践後の園内研修を実施した。子どもへの効果については、客観的に数値で表すことには至っていないが、ドキュメンテーションでまとめた学びの記述や、実践記録における資質・能力を発揮、伸長している姿の記述から、育ちを捉えることができる。特に、「自分のことを知る」の資質・能力について、教師がより意識して子どもの姿を見取ったり、子どもの姿を基にねらいをもち実践に当たったり、実践の省察を行い、３年間を見通してねらいや関わりを検討したりするなどしたことから、子どもへの間接的な効果が大きかったと考える。その他、教育課程の実施等により、教師が捉えている具体的な子どもの姿を以下に示す。

・お弁当の用意場面の実践事例検討の際、机の拭き方に対してどのような意図をもってどのような援助をするとよいのか職員間で協議したことで、その後の保育実践の中で、手にあった大きさに布巾を畳むことの必要やよさを感じられるようにと意図を明確にした援助を行うことができ、子ども自身が布巾で拭いた部分の拭き跡を確かめたり、拭けていない部分があることに気付き、布巾を畳み直して拭いたりするなどの変容が見られた。
・「事物・現象を捉える」の資質・能力の月の指導計画の充実により、ホットボンドを扱う時期について検討でき、子どもが木工ボンドとの違いを感じたりホットボンドの特性に驚いたりする姿につながった。
・資質・能力カリキュラムにより多様な観点をもっていることで、結婚式ごっこを楽しむ3歳児の遊びを支える上で、子どもの姿に変容が見られたときに、幅広い方向性で学びの可能性を広げることができた。実際に、なりきって踊る「身体の動きを表す」の資質・能力や衣装を作る「造形に表す」の資質・能力に向けての援助から、子どもの姿の変容に合わせて「演出に表す」の資質・能力を支える環境の構成を行うことで、子どもが多様な資質・能力を発揮、伸長することができた。
・教師が、育みたい資質・能力の方向性を明確にして子どもに言葉がけをすることで、子どもたちは何を問われているのか、考えることが明確になり、その方向に向けて深く考えるなど確かに学びに向かう姿を見取ることができた。

また、地域の保育者の研修の場として実施している幼児教育を考える研究会において、参加者には、指定した遊び（各学年から三つ程度）を参観し、本園の見出している資質・能力の観点で見取った学びを「学びのカード」に記入してもらい、協議を行っている。参観者の書いた学びのカードを分析すると、本園の見出している資質・能力41のうち、23の資質・能力について、参観者が学びと捉えた子どもの姿の見取りがあった。これは、本園の子どもの姿には、多様な資質・能力が育っていると、外部の保育者からも評価されていると言えるだろう。

b. ドキュメンテーションによる資質・能力の発揮、伸長

ドキュメンテーションの掲示や、子どもとともに作り、遊びの過程を書き表していくドキュメンテーションにより、「自ら決める・選ぶ」「自分に満足する」「他者のことを知る」「生き物・命を見つめる」等の資質・能力の発揮、伸長を確認することができている。具体的な姿を以下に示す。

・ 日々の遊びの積み重ねを表すドキュメンテーションを作成し、子どもが見える場所に掲示しておくことで、どんな遊びをしようか迷っている子どもも、ドキュメンテーションを見て、他の友達がどんな遊びをしているのかを知り、自分のしたい遊びを決めて遊ぶ姿や、遊びの続きがしたいと思っている子どもが具体的にどんな遊び方をしていたか思い出す姿などの遊びに向かう姿があった。
・ 好きな遊びや園での生活をドキュメンテーションにして掲示することで、「こんな遊びしていたんだ」「音楽隊の演奏会、今日はするの？」と子ども同士で会話が広がったり、友達のしていることを知る機会にもなったりしている。
・ ドキュメンテーションを見て「こんなにジャンプしてたんや」「真剣な顔をして走っている」「〇〇ちゃん楽しそうにダンスしている」など、自分や友達の遊んでいる姿を客観的に見ることができ、「自分もやってみたい」と遊びを深めるきっかけになったり、「〇〇ちゃんすごいね」と他者のことを知るきっかけになったりしている。
・ 運動会のドキュメンテーションでは、頑張った自分を思い出し、頑張っている姿に満足している様子が見られた。
・ お店屋さんごっこの活動をしている際に、したいことをお店のグループごとに付箋に随時書き残せるようにした。それを子どもがいつでも手に取れる場所に置いておくことで、毎回の活動の終わりに、しようと思っていてまだ残っていることを思い出したり、しようと思っていることの順番を、付箋を並べ変えながら考えたり変えたり、終わったこととこれからすることを子ども達自身で整理したりするようになった。

（２）教師への効果

a. 子どもの姿の見取りの深まりからよりよい実践へ

詳細で具体的な資質・能力の観点をもち、保育を計画したり実践記録やドキュメンテーションで言語化しながら保育を振り返ったりすることを通して、子どもにどんな資質・能力が育まれているのかを詳細に見取る力が高まっている。特に、「自分のことを知る」の資質・能力を発揮、伸長する姿の見取りや３年間を通したねらいや手立てのあり方について、事例検討やカリキュラム・マネジメントで明らかにし共有することができた。また、10 の思考力の資質・能力に対しては、人格形成の基礎となる資質・能力及び知性につながる資質・能力のねらいに含み込んで育もうとしているものと、まだ十分に表すことができていない部分やねらいとして意識できていなかった部分があることが明らかになり、思考力の資質・能力の見取りやねらいのもち方を見直すことへの意識が高まっている。

- ドキュメンテーションの作成を通して、遊びで育っている資質・能力を改めて確かめることができたり、実践している際には思っていなかった資質・能力の育ちがあることに気付いたりしている。一方で、実践している際には育っていると思っていた資質・能力が、改めて子どもの姿から振り返ると、思ったような姿が表れていないことにも気付き、自分の保育のねらいや援助を振り返る機会となっている。
- 資質・能力カリキュラムの作成や検討により、自分が見取りにくい資質・能力が明らかになり、その資質・能力をより意識して見取ろうとすることに繋がった。
- 作成した実践事例を検討する中で、自分が見取れていなかった子どもの内面や行動の可能性を他教諭から助言してもらうこと再考する機会となり、幼児理解が深まった。そのことにより、より有効な関わりや援助の仕方を発見することができた。
- 教育課程のねらいの中に含み込まれている思考力を捉え直すことで、今までは思考力と捉えていなかった部分にも思考力が含まれている可能性に気付き、今後の保育でより意識しようと思うことに繋がった。
- 思考力を含めたねらいをあまりもてていなかった３歳児においても、積極的に思考している姿を見取ろうとしたり、ねらいとしてもったりしようとする意識が高まった。
- ねらいをもつ時点での思考力の資質・能力の視点が弱かったことを改めて認識した。現在の思考力の数や定義等、小学校以降の思考力も見通しながら、見直していきたい。

b. 育みたい資質・能力の方向性を明確にした関わりへの意識の高まり

教師の援助や環境の構成及び再構成を、育みたい資質・能力の方向性を明確にした意図と行為をセットにして指導計画に表すことや、実践事例の作成や検討で自分の行なった関わりの意図を言語化し振り返ることを続けることで、普段から、子どもにどの資質・能力の方向での育ちを願って関わるかを明確にして関わろうとする意識が高まっている。

- 資質・能力の観点をもち、どの方向性なのか確かめながら援助や意図、環境を組み立てているので、教師がどんなことをねらいたいのか、支えたいのかを明確にもつことができるようになった。
- 意図と行為をセットにした援助、環境の構成が必要であることを意識し、座席の配置、朝の何気ない会話、園庭の環境など一つ一つについて、なんとなくしてしまっていることはないか、意味もなくそのままになっている物はないか、批判的な目で自身の振る舞い、環境について日々見つめ直している。
- 実践事例の作成を通して、一連の子どもの事実一つ一つに、どのような資質・能力の発揮、伸長が見られたか丁寧に省察し、学びに向けてどのような援助を行ったか、その援助は有効だったか、振り返ることができた。その場では咄嗟に発した言葉にも、その時どんな意図をもっていたのか言語化することによって明確にすることができた。
- 今年度自身の課題意識のある「食を見つめる」の資質・能力についての事例を作成し、職員で検討したことで、「食を見つめる」の資質・能力の見取りやそこに向けた教師の援助や環境の構成を改めることができた。

c. ３年間及び小学校以降の育ちの見通し、学びのつながりへの意識の高まり

教育課程や長期の指導計画及び遊びや生活のまとまりの計画を基に保育を計画したり振り返ったりすることや、毎学期末にカリキュラム・マネジメントを行うこと

で、３年間の学びのつながりを意識することができている。月の指導計画に加え、子どもに経験させたいことを遊びや生活ごとに整理した遊びや生活の見通し案を作成したことで、３年間の経験や学びのつながりを明確にし、その時期に必要な関わりを見直すことができた。また、文部科学省の三つの資質・能力への理解を深める中で、小学校以降の資質・能力の捉え方や評価の仕方、思考力の育ちについて考えることとなり、小学校以降の資質・能力の育ちへの意識も高まった。

- 運動会におけるリズム表現や生活発表会に向けて、遊びや生活のまとまりの計画を作成した。長期の遊びにおいて様々な資質・能力の方向に向けての学びが見られるようにすること、時期ごとにねらいとそれに応じた援助を意識的に変容させていくことを事前に計画・把握しておくことで、見通しをもって進めていくことができている。
- カリキュラム・マネジメントに向けて学期末に学年担任と振り返ることで、各資質・能力を通して担任する学年の子どもの姿や環境を見直す機会になったり、他学年と共有することによって見通しをもったり新たな可能性を考えたりする機会となったりした。
- 資質・能力ごとに生活面のことを捉えることが多かったが、生活の見通し案を作成、整理することで、３年間の発達を見通して生活をどう変えていくのがよいか考えるきっかけとなった。５歳で伝えたり経験させたりしていることであるが、本来はもっと前から経験した方がよいと思ったことは他学年と相談したり、見直したりすることができた。
- カリキュラム・マネジメントにおいて、子どもの育ちを資質・能力ごとに振り返るとともに、他学年と姿を共有し合うことによって、見通しをもって関わり方を変えていく意識をもつことができている。 特に、遊びや生活の見通し案の作成において、身支度や弁当場面などで、一つ一つ丁寧に段階を踏んで生活経験を重ねていけるように３歳児で関わっていることを、細かいことも意識的に言語化して集積した。他学年と共有し合うことによって、どう関わっていくべきか考え、実践するきっかけとなった。
- 文部科学省の示す三つの資質・能力と本園の見出している資質・能力の関係性を明らかにするにあたり、小学校教育における三つの資質・能力の評価についても学び、三つの資質・能力について理解を深めたり、学びのつながりを意識したりすることができた。また、思考力についても小学校以降の育ちも見通しながら見直す必要性を感じている。

d. 保護者等への発信力の高まり

詳細な資質・能力の観点での子どもの見取りを言語化したり、教師の関わりを意図とセットで言語化したりすること、また、言語化されたものを基に事例検討等職員で検討することを通して、子どもの学びや教師が大切にしていることを発信する力が高まっている。

- ドキュメンテーションの作成により、遊びの中の学びを言語化し、発信する力が培われていると感じる。意識的に文字に起こす経験を繰り返すうちに、日々の保護者への降園連絡や懇談でも、大切にしていることや今子どもが学んでいることについて以前よりもポイントを押さえて話せるようになってきている。

（３）保護者や地域社会への効果

a. 保護者による資質・能力を意識した子どもの見取りや関わり

保護者に対しては、子どもの具体的な資質・能力の育ちをドキュメンテーションで発信したり、本園で見出している資質・能力の観点による教育課程を基に子どもの実態やねらいを共有したり、具体的なねらいを示して保育参観や保育参加に取り組んでもらっている。それらの感想の中には、本園の見出している資質・能力の観点で子どもの成長を捉えている保護者や、具体的に多様な観点から子どもの姿を捉えている保護者が見られている。

また、年度末に保護者に対して行う学校評価アンケートにおける「園は、指導方針や教育活動のねらい、子どもの実態をわかりやすく伝えている」かの問いに対し、令和５年度の回答に「懇談会で指導方針の確認があったり、保育参加や行事の度に活動のねらいや、クラスでの様子とねらいの掲載があったりするので、どういう意図をもって活動しているのかが分かりやすく、保護者もどういう意図をもって

動けばいいのかが考えられる」といった記述が見られ、詳細な観点でのねらいや意図を明確にした関わりへの評価を得られていると考えている。今年度末の学校評価アンケートにおいても、保護者への効果を確認していく。

また、現在取り組んでいる研究課題及び内容について、一年次の研究のまとめ及び今後の計画について、二年次当初に保護者に示し理解と協力を得られるように働きかけるとともに、効果について調査を実施する予定である。

b. 兵庫県内の幼児教育施設への研究協力依頼

研究協力園として協力を得るために重要なことは、本研究開発の意義についての理解を得るとともに、研究協力園としての取組自身が現場の先生方に大きな負担をかけることなく、資質・能力への理解を深め、保育の発信力を高める研修として取り組んでもらえるという利点についての理解を得ることであると考える。

そして、実際に研究協力を得るためには、概ね次の３段階を経ることが必要であることが見えてきた。まず、第１段階は、教育委員会等各市町の幼児教育施設を所管する行政機関に、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。次に、第２段階として、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。さらに、第３段階として、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に直接参画を呼びかける。一年次、第１段階は全て終え、第２段階についても約半分程度終えている。二年次には、第２段階で残っている市町の幼児教育施設の管理職の理解を得るとともに、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらい、参画を呼びかけることも開始する予定である。

６　今後の方向性と課題

新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定できたことから、このねらいの枠組みによるカリキュラムの開発を行なっていく。

一年次の研究により、「思考力」の資質・能力については、「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」のねらいの言葉に含み込んで表していくことが幼児期の学びに相応しいと判断した。今後、「思考力」の資質・能力が、どの資質・能力とどういった関連をもって発揮、伸長していくのか、そのためにどういった手立てが必要であるか、ドキュメンテーションの作成や事例検討、カリキュラム・マネジメントにおいて明らかにしながら、カリキュラムや指導方法の開発に取り組む。その際、思考力の資質・能力を現在 10 の資質・能力で表しているが、十分であるのか検討を重ねる。

また、本園の見出している資質・能力の資質・能力名や定義、前提などの示し方について、運営指導委員会において指導いただいた観点から再度見直し、詳細な観点の資質・能力が関連しながら総合的に育まれるものであることや、幼児教育においてプロセス（関心・感覚）が大切であることを示し、また、それぞれの資質・能力においてその年齢なりの姿が捉えられるような表し方となるよう配慮するなど、表現方法を改善していく。

【研究組織】

（１）研究組織の概要

運営指導委員会（大学教員・教育委員会関係者等、年２回程度実施）

無藤　隆（白梅学園大学・名誉教授）

神長　美津子（大阪総合保育大学・特任教授　／　國學院大學・名誉教授）

古賀　松香（京都教育大学・教授）

上山　哲平(兵庫県教育委員会事務局義務教育課・指導主事）

成果報告 ↑　　↓ 指導・助言・評価

神戸大学附属幼稚園研究会

（神戸大学附属幼稚園教員・神戸大学附属小学校教員）

拡大研究会

（神戸大学附属幼稚園研究会・神戸大学教員・尼崎市立幼稚園研究代表者、適時実施）

北野　幸子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教授）

林　創（神戸大学大学院人間発達環境学研究科・教授）

永瀬　裕朗（神戸大学大学院医学研究科・特命教授）

尼崎市立幼稚園教育研究会

尼崎市立竹谷幼稚園・研究代表者　　尼崎市立武庫幼稚園・研究代表者

尼崎市立長洲幼稚園・研究代表者　　尼崎市立園田幼稚園・研究代表者

尼崎市立大島幼稚園・研究代表者　　尼崎市立園和北幼稚園・研究代表者

尼崎市立立花幼稚園・研究代表者　　尼崎市立小園幼稚園・研究代表者

尼崎市立塚口幼稚園・研究代表者

尼崎市教育委員会事務局学校教育部就学前教育課担当者

尼崎市立幼稚園教員

成果実証 ↓　↑ 意見聴取・評価　　成果普及 ↓　↑ 意見聴取・評価

研究協力園

（兵庫県内の幼児教育施設）

研究協議会・研究発表会（地域及び全国の幼児教育・小学校教育関係者）、研究説明会（保護者等）

（２）研究担当者（研究主任の氏名には〇印を付すること）

【神戸大学附属幼稚園】

職　　名	氏　　名	担当学年・担当教科
園長・副園長	田中　　孝尚	
教　諭	松本　　法尊	
教　諭	〇浅原　　麻美	
教　諭	長野　　萌映	年少
教　諭	森　　香奈子	年少
教　諭	吉田　　紘子	年中（～７月）
教　諭	千葉　加奈子	年中（７月～）
教　諭	髙橋　　梨花	年中
教　諭	小園　　佳歩	年長
教　諭	筒井　日奈子	年長

【尼崎市立幼稚園教育研究会】

職　　名	氏　　名	所属
園　長	廣瀬　　身佳	尼崎市立竹谷幼稚園
園　長	谷澤　三千起	尼崎市立長洲幼稚園
園　長	小寺　　秀樹	尼崎市立大島幼稚園
園　長	保田　　明子	尼崎市立立花幼稚園
園　長	伊藤　　和子	尼崎市立塚口幼稚園
園　長	上田　　晶子	尼崎市立武庫幼稚園
園　長	中根　　孝介	尼崎市立園田幼稚園
園　長	日下　恵理子	尼崎市立園和北幼稚園
園　長	山崎　　祥子	尼崎市立小園幼稚園
指導主事	川口　　祐子	尼崎市教育委員会事務局学校教育部就学前教育課

（３）運営指導委員会

① 組織

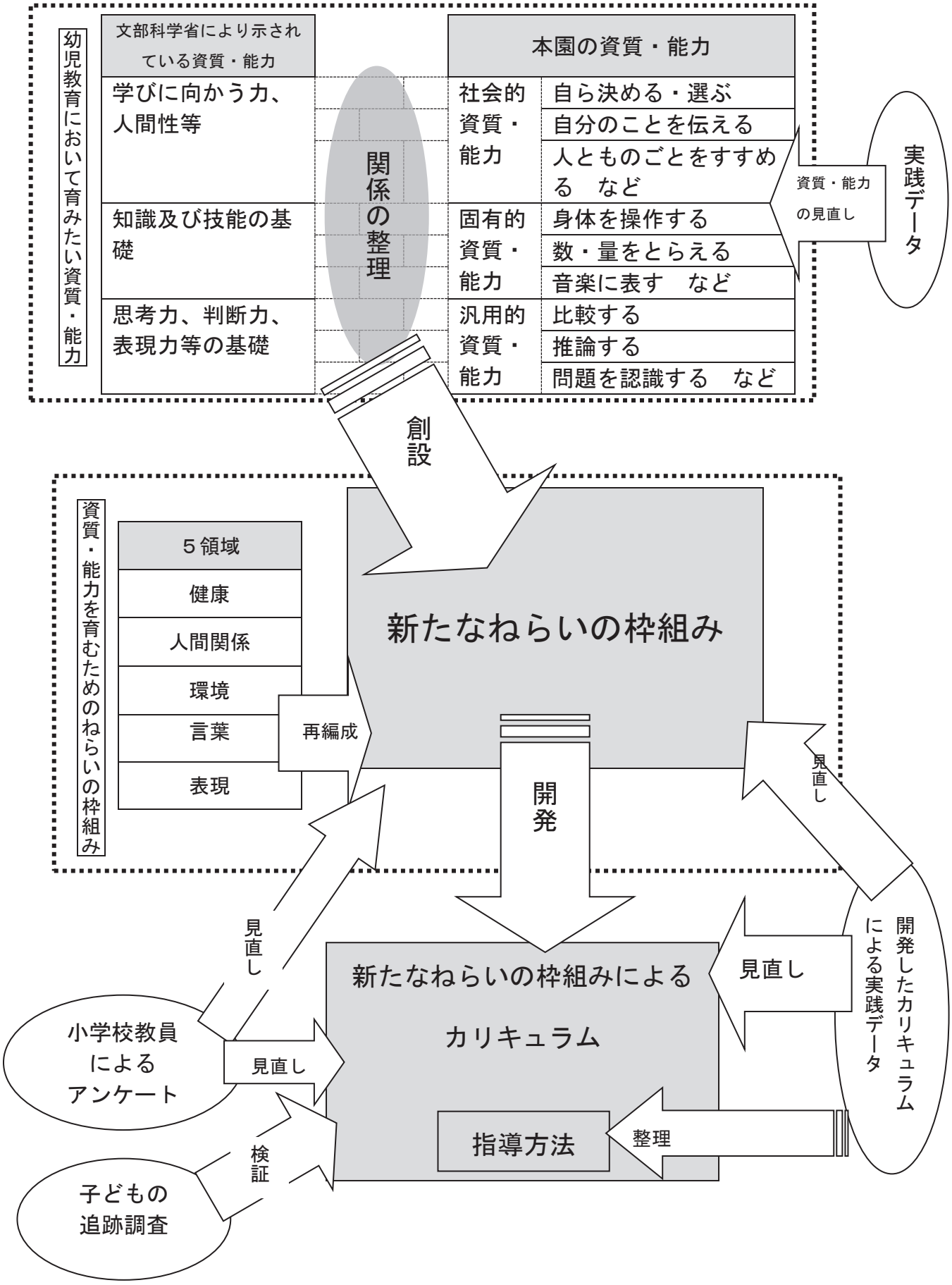
氏　　名	所　　属	職名	備考（専門分野等）
無藤　隆	白梅学園大学	名誉教授	教育心理学
神長　美津子	大阪総合保育大学児童保育学部	特任教授	幼児教育
	國學院大學	名誉教授	
古賀　松香	京都教育大学教育学部幼児教育科	教授	幼児教育
上山　哲平	兵庫県教育委員会事務局義務教育課	指導主事	小学校教育

② 活動計画

第１年次	６月	・研究開発の研究計画について報告を行い、指導・助言を受ける。 ・第２年次以降に実施する研究開発の核となる部分について、指導・助言を受ける。
	１月	・第１年次の研究成果について成果報告を行い、指導・助言・評価を受ける。 ・第２年次の研究の方向性について報告を行い、指導・助言を受ける。

別紙１

研究の概要図


幼児教育において育みたい資質・能力
文部科学省により示されている資質・能力
学びに向かう力、人間性等
知識及び技能の基礎
思考力、判断力、表現力等の基礎
関係の整理
本園の資質・能力
社会的資質・能力
自ら決める・選ぶ
自分のことを伝える
人とものごとをすすめる　など
固有的資質・能力
身体を操作する
数・量をとらえる
音楽に表す　など
汎用的資質・能力
比較する
推論する
問題を認識する　など
資質・能力の見直し
実践データ
創設
資質・能力を育むためのねらいの枠組み
５領域
健康
人間関係
環境
言葉
表現
再編成
新たなねらいの枠組み
開発
見直し
開発したカリキュラムによる実践データ
見直し
新たなねらいの枠組みによるカリキュラム
見直し
小学校教員によるアンケート
見直し
検証
子どもの追跡調査
指導方法
整理

神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧（No.1）　令和６年４月現在

		３歳児											４歳児											５歳児										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
自分の生き方	自ら決める・選ぶ	したいと思ったり、好きなことを選んだり、したいと思ったことをしたりする					好きなことやしたいことを厳選して、選んだりしたりする						できるようになりたい、上手になりたい、こうしたいなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も取り組もうとする											できるようになりたい、上手になりたい、こうしたいなどの具体的な目的をもったり、上達や難しさを感じながら自分の力に見合った目標を決めたり、目的に向けて見通しをもったりして、考え抜けたり、何度も試したりし、あきらめずにやり遂げようとする										
	自分に満足する	したいことや必要なことができて嬉しいと思う		したいことや必要なことができたり、できるようになったりして、嬉しいと思う			したいことができたり、できるようになったり、自分の考えのよさを感じたりして、嬉しいと思ったり、自信をもったりする						少しずつできるようになってきていることや自分の頑張り、自分の考えのよさを感じて嬉しいと思ったり、自信をもったりする						できなかったことや苦労したことを振り返ったり友達に認めてもらったりして、自分の頑張りや自分の考えや行動のよさを感じたり前とは違う自分を自覚したりすることで、自信をもったりやり遂げたことに満足したりする										
	気持ちをコントロールする	先生に手伝ってもらって、自分の気持ちを落ち着かせようとする											自分なりの方法で、自分の気持ちを落ち着かせようとする											人の気持ちを聞いたり周りの状況を知らされたりして、気持ちを落ち着けたり、折り合いをつけたりしようとする											人の気持ちを聞いたり周りの状況を見たり感じたりして、気持ちを落ち着けたり、よりよい方向に向けて自分の気持ちに折り合いをつけようとしたりする									
	自分のことを知る																																	
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
人とのつながり	他者といる喜びを感じる	先生や友達に親しみをもったり、一緒にいる心地よさを感じたりする			先生や友達に親しみをもったり、一緒にいる心地よさや触れたり触れられたりする嬉しさ、一緒に遊ぶ嬉しさを感じたりする								気の合う友達や今まであまりかかわりのなかった友達と一緒にいる心地よさや誘ったり誘われたりする嬉しさ、一緒に遊ぶ嬉しさを感じる						気の合う友達や今まであまりかかわりのなかった友達と、一緒に遊ぶ嬉しさを感じる						いろいろな人と一緒に遊んだり生活したりする嬉しさを感じる						いろいろな人と一緒に遊んだり生活したりする嬉しさを感じたり、仲間とのつながりを喜んだりする					
	他者のことを知る	気になる人の顔や名前を知ろうとする				気になる友達や先生のことを知ろうとしたり、友達や先生の好きなこと、素敵なところなどに気付いたり、いろいろな友達や先生の顔や名前を知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする				いろいろな友達のことを知ろうとしたり、いろいろな友達の個性に気付いたりする			いろいろな友達の気持ちや考えを知ろうとしたり、いろいろな友達の個性に気付いたり、年長児を身近に感じたりする						いろいろな友達の気持ちや考えを知ろうとしたり、今まで知らなかった個性に気付いたり、年長児の優しさを感じたりする						他者の気持ちや考えを知ろうとしたり、友達の考えや今まで知らなかった個性に気付いたり認めたりする										
	自分のことを伝える	自分の気持ちを表情や態度で表し、伝えることのよさを感じる		先生や友達にしたいことやしてほしいこと、自分の気持ちを、行動や言葉で伝えようとする							友達に自分の気持ちを言葉や行動で伝えようとしたり、先生や友達に自分の話をしようとしたりし、伝えることのよさを感じる						友達に自分の気持ちや考えを言葉で伝えようとしたり、先生や友達に自分の話をしようとしたりし、伝えることのよさを感じる						友達に自分の気持ちや考えを分かるように伝えようとしたり、分かってもらえるまで伝えようとしたりし、伝えることのよさを感じる						自分の気持ちや考えを相手にきちんと伝えたいと思って、伝え方を工夫したり、適当な伝え方を選んだりして、分かってもらったり受け入れてもらったりするまで伝えようとしたりし、伝えることのよさを感じる					
	他者のことを考えて行動する	先生や友達の様子を気にする						友達の様子を見たり、話を聞いたりして、気にかける							友達の様子を見たり、話を聞いたりして、してあげたいと思うことをしようとする											自分がどうかかわればよいのかを考えて、友達のためになることをしようとする										
	人と物事を進める																	友達と同じしたいことやすべきことに向けて、思いついたことをしようとしたり、友達の考えを聞いて自分のすることを考えてしようとしたりする											友達と同じしたいことやすべきことに向けて、状況や友達の考え、動きを見たり聞いたりして、自分のできることをしようとする									
																				気持ちや考えを伝え合いながら、遊び方や遊びに必要なルールを、友達と一緒に考えようとする						みんなが楽しくできるように、気持ちや考えを伝え合いながら、遊びや生活のすすめ方や必要なルールを友達と一緒に考えたり、決めたり、見通しをもったりしようとする						友達と共通の目的に向かって、納得するまで一緒に考えたり、試したり、話し合ったりして、遊びや生活のすすめ方や必要なルールを決めたり、守ったり、見通しをもったり、自分の責任を果たしたりしようとする									
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
体の健康を保つ		健康に過ごすためにしたほうがいいことがあると知り、仕方を聞いて、しようとする						健康に過ごすためにしたほうがいいことや、なぜしなければならないかを知り、しようとしたり、自分の体に興味をもったりする					体や健康に関心をもったり、健康に過ごすために必要なことや必要な理由を知り、自分からしようとしたりする											体や健康に関心をもったり、体の成長を喜んだり、健康に過ごすために必要なことや必要な理由が分かり、丁寧にしようとしたりする										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
身を守る		初めて出合う環境の中で、どうすると危ない状況になるかを聞き、危なくない方法を知り、その通りにしようとする					どうすると危ない状況になるかを聞き、危なくない方法を知り、危なくないようにしようとする						どうすると危ない状況になるかを聞いたり、驚いたり痛い思いをしたりして危ないことを感じたりし、危なくない方法を知り、危なくないようにしようとする						新しい遊具や環境の中で、どうすると危ない状況になるかを知ったり、危ない時に身を守る方法を考えたり知ったりして、危なくないようにしようとする						どうすると危ない状況になるかを知ったり、痛い思いや怖い思いをして危ないことを感じたり、危ない時に身を守る方法を考えたり知ったりして、周りの人やものに注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとする						新しい遊具や環境の中で、具体的な事や状況を想像してどうすると危ないかを考えたりどうすると危ない状況になるかを知ったり、危ない時に身を守る方法を考えたり知ったり、どうして危なくなったのかを振り返って考えたりし、周りの人やものに注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとする						どうすると危ない状況になるかや危ない時に身を守る方法を考えたり知ったり、どうして危なくなったのかを振り返って考えたりし、周りの人やものに注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとする					
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
身体を操作する		遊具を使う中で、いろいろな体の動かし方や使い方を感じ、体を動かす楽しさや心地よさを味わう					いろいろな遊具で遊ぶ中で、遊具を使う時の体の動かし方や使い方をしてみたり、いろいろに体を動かしたりしながら、体を動かす楽しさや心地よさを味わう						新しい遊具や用具で遊んだり、いろいろな遊びをしたりする中で、存分に体を動かすことを楽しんだり、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方を試したり、体で覚えたりしようとする						遊具や用具で遊んだり、いろいろな遊びをしたりする中で、存分に体を動かすことを楽しんだり、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方、力加減を、見たり、考えたり、試したり、体で覚えたりしようとする						新しい遊具や用具で遊んだり、友達と一緒にルールのある遊びをしたりする中で、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方、力加減を、見たり、考えたり、試したり、体で覚えたりしようとする						いろいろな運動遊びに挑戦したり、友達と一緒にルールのある遊びをしたりする中で、見たり考えたり試したりしてコツや感覚をつかみ、楽しんで体を動かしたり、友達の動きや遊具、用具、様々な場所や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方を調整したりしようとする					
		遊びや生活をする中で、いろいろな動きの感覚や動くことで生じる感覚を感じる																																
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
人と自然とのあり方を見つめる	自然環境を見つめる	身近な自然環境に触れ、興味・関心をもったり、好奇心をいだいたり、驚き、面白さ、美しさ、不思議さ、心地よさ、厳しさを感じたりする																																
	生き物・命を見つめる	身近な動植物を見たり触ったり嗅いだりなどして、美しさや匂い、感触などを感じたり、色やかたち、大きさ、模様、動きの面白さや不思議さ、違いを感じたりする																																
		身近な動植物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話をしてみようとしたりする																						身近な動物を見たり触ったり調べたりしながら、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、動物の気持ちを考え、命に責任をもって大切に世話をしようとしたりする 身近な植物を見たり触ったり匂ったり世話をしたり調べたりする中で、色や形、模様、匂い、感触、育ち方、なり方などの特徴や変化、生長する様子に感動したり、命に責任をもって大切に世話をしようとしたりする										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
事物・現象を捉える		身の回りのものを五感で感じたり、使ったり、使って遊んだりする中で、そのものの性質を感じて楽しんだり、面白いと思ったり、驚いたり、遊びに使おうとしたりする																																
		自分のしたことや使ったものによって、ものの様子が違うことに驚いたり、面白いと思ったりして、何度もしようとする																		したことや使ったものによって、ものの様子が違うことに驚いたり、不思議に思ったりして、予想したり、確かめたりしながら、何度もしようとする										ものやことの関係による違いや変化に気付いたり、原因と結果を結び付けて考えたり、経験から予想したり、試したり、確かめたりしようとする									
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
		３歳児											４歳児											５歳児										

神戸大学附属幼稚園　入園から修了までのねらい一覧（No.2）　令和６年４月現在

		３歳児											４歳児											５歳児										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
感動を表現する	造形に表す	素材に触れているうちに表現が生まれていく楽しさを感じたり、生まれたものの大きさを感じたり、思い描いたものや、しているうちに思い付いたものを描いたり作ったりする楽しさを感じたり、色や形の美しさや面白さを味わったりする				描きたいもの、作りたいものを思い浮かべて、色や形を考えて描いたり作ったり、身近なものをいろいろなものに見立てたりすることを楽しんだり、色や形の美しさや面白さを味わったりする							描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、いろいろな素材を使ったり、友達の表現のよさを感じて取り入れたりしながら、工夫して描いたり作ったり飾ったりすることを楽しむ。また、色や形、組み合わせ方、質感の美しさや面白さを味わう							描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、素材の特徴をいかしたり、友達の表現のよさを感じて取り入れたりしながら、工夫して描いたり作ったりすることを楽しむ							描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべてその特徴を捉えたりして、大きさや形、色、組み合わせ方などを考えたり、素材の特徴をいかしたり、友達がすることを真似たり、友達の表現のよさを感じて取り入れたりしながら、細部までこだわって工夫して描いたり作ったりしようとし、その楽しさを感じる						
	音楽に表す	身の回りの音の響き、言葉、歌や曲のリズムやテンポ、メロディーを感じながら、聞いたり、歌ったり、体を動かしたり、															歌や曲のリズムやテンポ、メロディー、曲調を感じたり、歌の情景を思い浮かべたりしながら、聞いたり、歌をうたったり、歌や曲に合わせて楽器を鳴らしたりすることを楽しむ							リズムやテンポ、メロディー、曲調を感じたり、歌の情景を思い浮かべたりしながら、それらを意識して、聞いたり、歌をうたったり、体を動かしたり、楽器を鳴らすタイミングを考えて合奏したりすることを楽しむ							歌詞の意味を自分の状況や心情と重ね合わせてうたったり、友達と気持ちを合わせてうたったりする充実感を味わう						
		身の回りの音の響きを感じたり、身の回りのもので音を鳴らしたりすることを楽しむ																																
	文芸に表す	絵本を見たりお話を聞いたりして、繰り返しの展開を楽しんだり、次はどうなるかを楽しみにしたりする				絵本を見たりお話を聞いたり歌を歌ったりして、話が展開していくことを楽しんだり、情景を思い浮かべたり、登場人物の気持ちを感じたりする																		絵本を見たりお話を聞いたり歌を歌ったりして、話の展開を予想したり、情景を思い浮かべたり、登場人物の気持ちを感じたりする。										
		先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながら遊ぶ楽しさを感じる 先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作る楽しさを感じる					先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作る楽しさを感じる						先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話を作って遊ぶ楽しさを感じる								先生や友達と一緒にイメージを膨らませてお話や役の設定を考えながらお話を作る楽しさを感じる			イメージを膨らませて、役や設定を考えたり、友達の考えを取り入れたりしながら、友達と一緒にお話を作って遊ぶ楽しさを感じる							イメージを膨らませて話の設定や展開を考えて、設定を生かしてお話を作ったり、気持ちや状況に合った歌詞を作ったりする楽しさを感じる						
		言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）の面白さを感じる															言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）や例えなどのいろいろな言い回しの表現の面白さを感じ、それを使って表現する楽しさを感じる											言葉のリズムや融を踏む響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語を使っての表現の面白さ、例えなどのいろいろな言い回しをしての表現の面白さを感じ、それを使って表現する楽しさを感じる										
	身体の動きに表す	自分のなりたいものの姿や動きなどを思い浮かべて、なって遊ぶことを楽しむ					自分のなりたいものの姿や動きなどを思い浮かべたり、友達の表現のよさを感じたり真似をしたりしながら、なって遊ぶことを楽しむ										自分のなりたいものになりきり、具体的な場面を思い浮かべたり、友達の表現のよさを感じたり真似をしたりしながら、動きや話し方などを考えて身体で表現することを楽しむ						自分のなりたいものになりきったり、気持ちや性格、具体的な場面を思い浮かべたり、友達の表現のよさを感じたり真似をしてみたりしながら、自分なりの表情や言葉、話し方、動きなどで表現したりすることを楽しむ											自分のなりたいものの気持ちや性格、生態から、表情や言葉、話し方、動きなどを考えたり、場面設定に合わせた動きや話し方などを考えたり、友達の表現のよさや考えを取り入れたりして、表現することを楽しむ						
		感じたことや考えたことを身体で表現しようとしたり、それを楽しんだりする																																
	演出に表す	自分のなりたいものになるために、小道具や大道具、衣装を使ったり身につけたりして、遊ぶことを楽しむ																	自分のなりたいものをよりそれらしく表現するために、使いたい小道具や大道具、衣装など必要なものを考えたり、それを使ったり身につけたり、友達の衣装や隊形のよさを感じたり取り入れたりして、遊ぶことを楽しむ											自分のなりたいものをよりそれらしく表現するために、また、見ている人がどう感じるかを考えながら、自分たちが感じてほしいことをより効果的に表現するために、小道具や大道具、衣装、言葉、話し方、動き、場のとり方、飾り方、音楽、隊形、プログラムの内容や順番、司会等の役割などを考えたり、試したり、友達がしていることのよさを感じたり取り入れたりして、表現しようとする						
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
言語を活用する	語彙・語句を活用する	身近なものの名前や園生活で使う言葉、自分の気持ちを表す言葉を知ったり、使ったりする												言葉の意味を知ったり、知って選んだりする																				
													いろいろな語彙にふれながら、言葉が音の集まりであることを知ったり、音のつながりを楽しんだりする										いろいろな語彙にふれながら、言葉を構成している音の数や並び、組み合わせを使ったり、音を置き換えたりして遊びながら、いろいろな言葉や言葉のつくり、音に興味・関心をもつ											
																								「てにをは」の違いを感じて、選んで使おうとする										「てにをは」を使い分けようとする
													自分の名前に使われているひらがなを、興味をもって見ようとする				身の回りの記号や文字を、興味をもって見たり読もうとしたりする							遊びの必要から、知りたいことや書かれていることを読もうとしたり、人に伝えたいことや覚えておきたいことを書こうとしたり、書いて残しておくことのよさを感じたりする				遊びの必要から、知りたいことや書かれていることを読もうとしたり、人に伝えたいことや覚えておきたいことを書こうとしたり、書いて残しておくことのよさを感じたり、文字には、決まった形や向き、筆順があることを感じたりする						
		場に応じた丁寧な言葉にふれる					場に応じた言葉の丁寧さを感じる															場に応じた丁寧な言葉を使おうとする										場に応じた丁寧な言葉を考えて使おうとする					
	文章の構成を整える	先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の言いたいことを自分の言い方で言ったりしようとする					先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の気持ちや思い、考え、言いたいことを自分の言い方や先生に教えてもらった言い方で言ったり、相手に伝えるために必要なポイントを尋ねてもらって言ったりしようとする						先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の気持ちや思い、考え、相手に伝えるために必要なポイントを教えてもらって話したりしようとする						先生や友達の言葉や言い方を聞いたり、自分の思いや考えを、相手に分かるように繰り返す、言葉を足す、理由を添える、聞かれたことに答えるなどして話したりしようとする						言い方による分かりやすさを感じたり、自分の思いや考えを、相手に分かるように言葉を選ぶ、つなげる、順序立てる、理由を添えるなどして話そうとしたりする						言い方による分かりやすさを感じたり、自分の思いや考えを、相手に分かるように言葉を選ぶ、つなげる、順序立てる、理由を添えるなどして伝えようとしたりする						
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
事象を数理的に捉える	形を捉える	形の面白さを感じたり、いろいろな形に親しんだりする											いろいろな形に親しみ、比べたり組み合わせたりしながら、形の特徴を感覚で捉える											いろいろな形を比べたり、組み合わせたりしながら、形の特徴を感覚で捉えたり、遊びや生活に形の特徴をいかそうとしたりする										
	数・量を捉える	数・量（数、長さ、重さ、大きさ）の多い少ないを感じたり、ものと対応させて数えたりして、数・量に親しむ											数えたり並べたりはかったりして比べ、数・量（数、長さ、重さ、大きさ）の多少を感じる								数・量（数･長さ･重さ･大きさ･時間）の多少や速さを捉えたり、まとまりで捉えたり、操作したりしようとする																
	空間を捉える	高さ、広さ、距離、位置を身体で感じる															高さ、広さ、距離、位置を感覚で捉えようとする							高さ、広さ、距離、位置を感覚で捉えたり、操作したりしようとする											
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
暮らしをつくる	食を見つめる	幼稚園でおやつを食べることを楽しみにする			幼稚園でおやつを食べることや、収穫した野菜を家に持って帰って食べることを楽しみにする			いろいろな食材に親しみをもったり、幼稚園で先生や友達、お家の人とおやつや弁当を食べる楽しさを感じたりする						いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先生や友達、お家の人とおやつや弁当を食べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食べたりする楽しさを感じたりする											旬の食べ物があることや食べ物の働きを知ったり、喜んで食べたり、食べることを楽しみにして野菜を育てたり、いろいろな食材について知り、いろいろな料理があると感じたり、自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりする										
		楽しく心地よく食べるためにした方がよいことを知ったり、自分で気付いたり、先生に確かめたりしてしようとする					楽しく心地よく食べるためにした方がよいことを知ったり、自分で気付いたり、先生に確かめたりしてしようとする						楽しく心地よく食べるためにした方がよいことと、その意味を知ったり、自分なりに考えたりしてしようとする											楽しく心地よく食べるためにすべきことの意味が分かってしようとする										
	場や状況を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすくなる物の始末の仕方を感じたり、手伝ってもらってしたり、自分でしようとしたりする						自分の周りや、みんなで使う場所が気持ちよく使いやすく楽しくしたいことがしやすくなるような遊びや生活の場の整え方や物の始末の仕方を感じたり、気付いたり、自分なりに考えたりして、整えたり、作ったりしようとする																						気持ちよく使いやすく楽しくしたいことがしやすくなるように、物の始末をしたり、遊びや生活の場を選んだり、整えたり、作ったり、作りかえたりしようとする										
	財を活用する								ごっこ遊びを通して、先生や友達と、売ったり買ったりするやりとりを楽しむ												ごっこ遊びを通して、先生や友達とお金やカード、チケットを使って売ったり買ったりすることを楽しむ																
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
多様な文化を尊重する			身近な伝統行事に興味をもつ											身近な伝統行事、祝祭日に触れ、関心をもつ											身近な伝統行事、祝祭日に触れ、日本の風習や生活の節目を感じる										
													他の地方や他国の存在を感じる											他の地方や他国の存在を知ったり、その地の生活の仕方や言葉、衣類などの違いを感じたり、面白いと思ったり、よさを感じたりする										
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
社会とのつながりを築く	施設や働く人とつながりをもつ	幼稚園の施設や生活を教えてもらったり感じたりして、幼稚園がどんなところかを知る												幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物に興味・関心をもち、それらがみんなの物であることを知る											施設や施設にある物を使う時には きまりごとがあると知り、その意味が分かり、きまりごとを守って使おうとする						施設や施設にある物を使う時にはそこでのきまりごとの意味を考えて過ごそうとする						
								興味・関心をもって見たり関わったりして、幼稚園のいろいろな人と自分との関係を知る						興味・関心をもって見たり関わったりして、幼稚園のいろいろな人と自分との関係や幼稚園に関わる人の役割を知る											自分の生活に関わる社会の人の役割を考える										
	資源の活用を見つめる	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無駄になることはもったいないと感じる						見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無駄になることはもったいないと感じ、大切にしようとする						まだ使えるものを捨ててしまうことや必要以上に使うことをもったいないと感じたり、大切にしようとしたりする							まだ使えるものを捨ててしまうことや必要以上に使うことをもったいないと感じたり、取っておこうとしたりする											まだ使えるものを取っておこうとしたり、ものや労力、時間などが無駄にならない使い方を考えて大切に使おうとしたりする						
資質・能力のまとまり	資質・能力	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
		３歳児											４歳児											５歳児										

【 研 究 担 当 者 】

神戸大学附属幼稚園

園長・副園長	田中　孝尚	
教　諭	浅原　麻美	
教　諭	小園　佳歩	
教　諭	髙橋　梨花	
教　諭	千葉　加奈子	（７月～）
教　諭	筒井　日奈子	
教　諭	長野　萌映	
教　諭	松本　法尊	
教　諭	森　香奈子	
教　諭	吉田　紘子	（～７月）（五十音順）

尼崎市立幼稚園教育研究会

園　長	廣瀬　身佳	尼崎市立竹谷幼稚園
園　長	谷澤　三千起	尼崎市立長洲幼稚園
園　長	小寺　秀樹	尼崎市立大島幼稚園
園　長	保田　明子	尼崎市立立花幼稚園
園　長	伊藤　和子	尼崎市立塚口幼稚園
園　長	上田　晶子	尼崎市立武庫幼稚園
園　長	中根　孝介	尼崎市立園田幼稚園
園　長	日下　恵理子	尼崎市立園和北幼稚園
園　長	山崎　祥子	尼崎市立小園幼稚園
指導主事	川口　祐子	尼崎市教育委員会事務局 学校教育部就学前教育課

【 研 究 協 力 者 】

神戸大学大学院

教　授	北野　幸子
教　授	林　創
特命教諭	永瀬　裕朗

神戸大学附属小学校

指導教諭	俣野　源晃	
教　諭	青戸　正裕	
教　諭	田淵　知紗	
教　諭	友永　達也	
教　諭	長川　智彦	
教　諭	宮本　誠一郎	（五十音順）